

(2) 島原半島あるもの探し

1) 「半島地域づくり会議 in 島原半島」でのあるもの探し

① 「半島地域づくり会議 in 島原半島」とは

国土交通省 都市・地域整備局 地方振興課 半島振興室により、島原半島の各種活動リーダーや行政職員が集まって交流する場を設定し、住民主体の事業の企画・プログラム開発等を通じ、地域内のプレイヤー間の新たな関係構築や、新たな試みの契機とすることを期待して開かれたものである。

半島地域は、地場産業の衰退や高齢化の進行など共通の課題を抱えている一方で、近年では住民主体で美しい自然景観や独特の歴史・文化などを生かした地域づくりを進めようという活動が活発になっている。そこで、多くの共通点を持つ各半島地域の住民、行政関係者等が一堂に会し、情報・アイデアの交換、半島地域の活性化のための知見と問題意識の共有を図り、自立的な地域づくり活動の実践につなげることを目的に平成 18 年度から「半島地域づくり会議」が開催されている。能登地域、宇土天草地域、幡多地域、下北地域に続き、本年度で 5 地域目の開催となった。

＜雲仙プラン 100 プロジェクトからの半島会議参加者＞

- フィールドワークコースⅠ 加藤（宗）、松野、石田（直）、加藤（隆）、加藤（雅）、枝松
- フィールドワークコースⅡ 加藤（一）、福田+子ども、石田（真）、村上+子ども、濱里、野原
- 食談義 加藤（宗）、加藤（一）、松野、石田（直）、石田（真）、加藤（隆）、加藤（雅）、枝松、野原
- 地獄蒸し準備 荒木（美）、加藤（沙）
- 全体会議 加藤（宗）、松田、石田（直）、加藤（雅）、野原、枝松

② 半島地域づくり会議における「島原半島あるもの探し」

「半島地域づくり会議 in 島原半島」の一環として、2 月 12 日に会議参加者による島原半島あるもの探しが行われた。

＜コースⅠ＞

①	宝の名称	守山女性部加工組合
	宝の内容	・ 伝統野菜、有機野菜、無農薬野菜など
	活用アイデア 	・ デトックス（毒素排出健康法）として、伝統野菜（有機、無農薬）とスパの岩盤浴やかせやの奥さんの精進料理と組み合わせる。 ・ 「地獄で育った健康野菜」のような雲仙での野菜栽培 ・ 「伝統野菜の解説つきの農体験」といったオプションツアー ・ おいしい地獄蒸しの作り方を一緒に考えてほしい ・ 島原半島食のフェノロジーカレンダーをいっしょにつくる

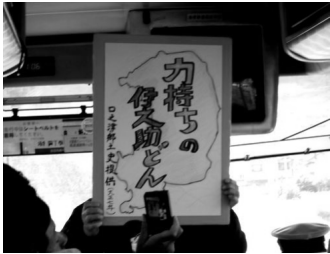
②	宝の名称	守山女性部加工組合の弁当
	宝の内容	・俵石米と守山の伝統野菜など島原半島内のユニークな食材を集めたもの。味のバランスもよかった。
	活用アイデア 	・お品書きやパッケージの工夫で付加価値を高めることは可能。ジオパークや雲仙岳、温泉の紹介なども織り込んで駅弁、空弁などに進化させる。 ・温泉街での提供のし方、その場合の食材の組み合わせなども検討したい。

③	宝の名称	雲仙こぶ高菜
	宝の内容	・生食で食べられる甘さ。 ・こぶ高菜の姿自体が立派。 ・交雑しやすい種だが、大切に守られてきた。
	活用アイデア 	・期間限定で、生食で提供したい。そのために、提供のし方（分け方、刻み方やセットにする食材、盛り付け容器など）や提供の場について検討が必要。 ・スローフードの認定がなぜ獲得できたかがまだ十分に解説されていないように思うので、その整理と見せ方を考える必要がある。 ・手のかかっている商品は、それなりの値段で売りたい。もともと安いものではないので、そういった価値のあるものにニーズを持つ洗練された人に売ってゆきたい。

④	宝の名称	島原市長浜の石干見（スクイ）
	宝の内容	・地域の特性（干満差が大）を活用した伝統漁法、持続可能な漁法。
	活用アイデア 	・産業としては無理。 ・維持管理を含めて、見せる場、環境学習の場に徹するしかない。周辺環境整備が重要。また、時間帯を意識して案内するとか、「潮の干満と地域の暮らし」などのストーリー性の付与が必要ではないか。 ・温泉街と海のつながりをもたせるプログラムの一つとして活用。

⑤	宝の名称	島原まちなか散策
	宝の内容	・ 20 万人分を養える豊富な湧水がある一方で、それを市街地に引き水路に流して共同利用しやすくし、最後はまた地中に浸透させて城内の湧水にも利用するという土木技術（昔の人の知恵）。 ・ 車が入りにくい道（不便な生活）も甘受して街並みを維持しているという人々の心意気。
	活用アイデア	・ ガイド間の交流。ジオつながりをもっと深める素材にする。

⑥	宝の名称	本多木蠟工業所
	宝の内容	・ 煤が出にくい、消えにくい、炎のゆらぎが独特。 ・ 融点 40℃の油であることから髻付けに利用されている。 ・ 昭和初期の玉絞りの機械と技術を今も利用。 ・ 玉絞りの搾りかすには成分が残っているため、利用価値が高い。
	活用アイデア	・ 和ろうそくの特性を強調した使い方を温泉街で考える。 ・ 別の素材を利用（守山でつくったゴマを玉絞り機で絞ってゴマ油にする、など）した商品づくり。 ・ ハゼの搾りかす（栄養分が多い）を農家の肥料として使う、搾りかすを焼いた灰を雲仙焼きの釉薬に使うなど、資源循環利用のお手本にする。 ・ 同じ原理（玉絞り）でもう少し効率化を図る努力も必要ではないか。また本来の商品としてのアピールがまだ不足している。（産業化の余地がまだ残されていると思われるので、それを追求しながら、一方で合わせ技として体験や学習の素材としても活用） ・ 体験プログラムとしては、ハゼの実採取などのフィールドワークも組み込みたい。そのようなコーディネート機能（組織）があると、もっと良さが活かされる。 ・ ハゼの木の植林体験ツアー ・ 手のかかっている商品は、それなりの値段で売りたい。もともと安いものではないので、そういった価値のあるものにニーズを持つ洗練された人に売ってゆきたい。 ・ 雲仙のストーリーをのせた商品づくり、普賢岳の四季の花をあしらった蠟燭など

⑦	宝の名称	有明童話の会くすのき、創作民話
	宝の内容	・おばちゃん達の結束力、楽しみ方 ・オリジナルで作成された民話（小浜、雲仙、吾妻の温泉を巡る3人のおなごの話）
	活用アイデア 	・イベントで登場してもらう。 ・各ジャンルの民話（紙芝居）を作成し観光客へ案内、団体は活躍の場の拡大。 ・足湯で紙芝居など ・「雲仙童話」の開発（本） ・宮崎旅館の女将さんとの紙芝居コラボ→温泉街の皆に広げる ・雲仙の温泉内で週末だけでも、聞ける場をつくりたい ・地獄太鼓との組み合わせ ・2月最終週のエコタツの日の夜に囲炉裏を囲んでの昔話ならぬ、エコタツを囲んでの昔話。明かりはもちろん本多木蠟。

<コースⅡ>

⑧	宝の名称	千々石展望台（千々石観光センター）
	宝の内容	・ジオパークを語る上で一番のポイントである千々石断層をハッキリ確認できる場所
	活用アイデア 	・ジオコースなど、雲仙温泉街で販売するオプションプランのコースとして活用 ・千々石観光センター今までは雲仙とのライバル関係であったように感じる →仲間になることが大事 ・雲仙の旅館とももっとコミュニケーションをとり、一緒に宣伝に行ったり、パンフレットを置いたりする

⑨	宝の名称	・「じゃがちゃん」
	宝の内容	・20年近く販売し続けている名物
	活用アイデア 	・「じゃがちゃん」と「ピロツケ」のコラボ ・「じゃがちゃん」の雲仙温泉街朝市出店など、雲仙にも進出してほしい ・ドリンクとのセット販売をしていたが、雲仙レモネードはどうだろうか ・じゃがちゃんを食べるウンゼリーヌの映像をつくる

⑩	宝の名称	橘神社
	宝の内容	・ 町田さんの取り組み ・ 毎年、お正月、桜まつりなど、様々なイベントで集客力がある 今のところ、雲仙温泉街はその集客力を活用できていない
	活用アイデア	・ もっと温泉地として橘神社のイベントとコラボする ・ 正月時に雲仙神社、千々石神社、橘神社の三社参りのバスを運行、その時、吾妻の民話紙芝居を披露する ・ 三社参りに雲仙札をつくる ・ 大門松の設営時、雲仙から人手が手伝いにゆく ・ 桜まつりに来た観光客向けに、雲仙へのピクニックツアーをつくる ・ 出店業者（雲仙温泉ゆかりのテキヤがいる）を通じての宣伝 ・ 「エコタツポスター」につづく「門松」題材にしたおもしろポスターの作成

⑪	宝の名称	日本一の足湯
	宝の内容	・ 105mの日本一長い足湯 ・ 海を見ながら足湯につかれる。疲れがとれ、とても良い
	活用アイデア	・ 日本一の足湯に対抗し、雲仙温泉で、メタケイ酸の美肌効果を活用した「日本一の顔湯」をつくる（パック効果）。足湯⇔顔湯で盛り上がる ・ ウンゼリーヌが足湯につかっている映像 足だけ着ぐるみを脱いでいる おゆっぴーとのコラボ（ジーオくんもおいで）



⑫	宝の名称	温泉蒸し
	宝の内容	・ 温泉蒸しをした野菜が大変おいしかった ・ ブロッコリー片手の人が続出
	活用アイデア	・ 小浜の温泉蒸し⇔雲仙の地獄蒸しで相乗効果をねらう ・ 小浜の温泉蒸しと雲仙の地獄蒸しの味や成分の違いを明らかにしたい



⑬	宝の名称	そうめん
	宝の内容	・南島原名産のそうめん
	活用アイデア 	・雲仙でそうめん屋を共同出資でつくる(10万円、5万円を募って) ・そうめん屋台(リヤカーORワゴン車) ※替え玉でなく、替え束 ※各種つゆ、トッピング ※丸亀うどんのようなセルフそうめんも良い

⑭	宝の名称	手のべ陣川 営業 陣川健吾(厚生労働省認定 製麺技能士)
	宝の内容	・麺職人についての資格「製麺技能士」 ・本物の麺職人がつくる手延べそうめん
	活用アイデア 	・雲仙オリジナルの「地獄ぞうめん」の開発によるWINWIN

⑮	宝の名称	流しそうめんイベント
	宝の内容	・温泉と橘神社の大門松を使った流しそうめん ・つけ汁は味噌汁で食べた
	活用アイデア 	・雲仙の旅館でもっと南島原市でつくられたお味噌やそうめんを積極的にとりいれたい ・雲仙でも流しそうめんのイベントを実施したい。新湯の坂道の流しそうめんは味噌汁で古湯の坂道流しそうめんではアゴだしで食べるといった流しそうめんイベント ・定期的なそうめん流し大会や第1回全国わんこそうめん大会 ・雲仙青年観光会主催 福岡宣伝隊でのコラボ ・山口さんの団体と共に雲仙で流しそうめんイベントをする ・雲仙の既存のイベントとの融合 - はだしであそぼう×流しそうめん

⑩	宝の名称	原城
	宝の内容	・歴史好きにはたまらない場所 ・有名な話ではあるが、ガイドから天草四郎の話を現地で聞くとより多くの感動があった ・しかし、ガイドなしでの周遊はあまり楽しくないだろう ・また、トイレなどインフラが不足しているのが気になった ・看板なども劣化が目立った
	活用アイデア 	・雲仙から原城、歴史を扱ったツアーバスなど、半日程度のオプションツアーを用意 ・わらび座の天草四郎ミュージカルを見たが、素晴らしかった。メモリアルホールで天草四郎を題材としたミュージカルを上演したい→宿泊につながる ・天草四郎など文化的なものを取り入れた市民ミュージカル ・「エコタツポスター」につづく「原城」題材にしたおもしろポスターの作成

⑪	宝の名称	口之津柑橘研究所
	宝の内容	・口之津にある柑橘類の研究施設 ・デコポンは熊本が有名であるが、実は口之津で生まれた品種
	活用アイデア	・オプションツアーへの組み込み

⑫	宝の名称	有家の蔵めぐり
	宝の内容	・島原半島内でもあまりないレトロな町並みで雲仙に来た観光客にもっと知ってほしい場所 NO. 1 ・見学中に食（味噌、そうめん等）を絡められる事が強い魅力
	活用アイデア 	・南島原市ともっと交流し、雲仙の観光客にもっと有家へ足を運んでもらえるようにする ・蔵めぐり半日ツアー（すぐにでも販売したい）

⑪	宝の名称	島原半島にある日本一、日本初
	宝の内容	・千々石の門松 ・小浜の足湯 ・サントス（コレジヨ）の活版印刷 ・貿易港としての口之津 ・日本初のリゾート地雲仙 ・ゴルフ場 ・国立公園 etc
	活用アイデア	・島原半島の日本一、日本初をもっと打ち出す ・トルコライスを最初に名づけたのは雲仙出身のコックで、森義春さんの叔父にあたる人らしい →雲仙トルコライスの開発（和風、洋風、中華風すべて） ・小浜「ハリー」のトルコライスはおいしい

<食談義>

⑫	宝の名称	地獄蒸しサツマイモ（の一部）
	宝の内容	・菌糸を活用した土づくり、自然農法で生産
	活用アイデア	・雲仙シイタケの菌床（数年間使用後の廃棄物）を自然農法のグループの土づくりに使ってもらう。そのサツマイモを雲仙温泉で売り出す。

⑬	宝の名称	中学校吹奏楽部によるお神楽
	宝の内容	・地域芸能の上演 ・伝統を引き継いでいる子どもたち
	活用アイデア	・地域芸能を雲仙によんで上演してもらう（交通費と温泉にはいれるということぐらいでできてもらえるのでは） →必要なのは雲仙温泉街が島原半島地域を巻き込む姿勢 →また、自分たちで楽しめるイベントでないと疲弊していつてしまう。（やりたい人がやれることを） 「郷土芸能の夕べ」 ・半島内向けのイベント、出演料の代わりに温泉につかってもらう。 ・半島の人を接待してつながりをつくってゆかなくてはいけない ・島原半島地域のひとに見てもらう。 ・地域交流の拠点としての雲仙

<雲仙地獄蒸し>

⑳	宝の名称	雲仙地獄蒸し
	宝の内容	・ イイダコ、豚バラの大根ばさみ、シイタケ饅頭他 ・ 荒木美智子さんと加藤沙織さんによる準備
	活用アイデア  	・ 小浜の温泉蒸し⇔雲仙の地獄蒸しという連携 ・ 雲仙は昔、地獄でトウモロコシを玉子と一緒に売っており、甘く、本当においしかった (今の島原半島では南串産のトウモロコシがおいしいらしい) ・ 雲仙の地獄蒸し料理を研究する必要がある ・ 地獄で温めたビン牛乳、コーヒ牛乳なども出すと良い

<その他、半島域での関係づくりのポイントとなると思われること>

- ・ お山の文化祭やルネサンスなど、過去のイベントのコンテンツを整理し、半島との連携に活用できるものを掘り起こす
- ・ オプショナルツアーを販売する窓口の設置が必要
窓口の設置はオプショナルツアーの内容が充実してから行う。1年から2年は内容の充実にあてる。
- ・ 島原半島地域とのつながりがないので、雲仙はその独特さの表現ができないのではないかな。
島原半島地域とつながることで雲仙とは何かが見えてくる？
- ・ 他地域の団体をもっと知るべき

③ 半島地域づくり会議参加者聞き取りメモ

○本来観光業でない人のやることがすごかった。

橘神社門松で流しそうめんという、千々石と南島原の連携や、小浜が流しそうめんを半島会議後も、翌日も一般観光客にふるまったことなど。

また、それを行った若者たちを動かしたのは、山口さんや町田さんというキーマン。

山口さん、町田さんというキーマンは消防署員という普通（観光協会、青年会など）とは違う経路のつながりで人を動かしている。

→雲仙でも、そういった今までとは違うつながりで人を動かすことができるのではないかな。
半島会議の反省会でキーマンを捕まえ、

- ① ジオパークの国際会議でできること（来年）
- ② 島原国体でできること（再来年）

をテンポよくやってゆき、様々な人、団体を巻き込み半島規模で協力
半島会議に参加した人は皆、島原が好き（また、リタイアした世代が多い）
雲仙に招待して垣根を取り除きたい。
雲仙も好きになってもらい、「せっかく島原半島に来たんだから、雲仙に寄って行かんね。
よか温泉やけん。知っとるよか人もおらすけん。」と半島みんなが言ってくれる関係づ
くりが大切。
例えば「郷土芸能の夕べ」
半島内向けのイベント、出演料の代わりに温泉につかってもらう。
半島の人を接待してつながりをつくってゆかなくてはいけない
例えば「島原半島住民への温泉感謝祭」の実施
半島の人達に、日頃の感謝を込めて、その日は、半島の人温泉入浴無料や地域色溢れるイ
ベントで半島の人をおもてなしするお祭り。
ゆくゆくは雲仙温泉だけでなく島原半島全体で温泉感謝祭
なぜ感謝祭かと言えば、たとえば国立公園になったのは長崎県内住民の投票のおかげであ
る。

- 半島会議で他地域の関わった人は純粹。ある種自己満足だが、そこに地域の高まりがある。
雲仙以外は横のつながりがもともとあって、雲仙だけ孤立気味だった。
これから、そこにどう入りこんでゆくか。
今回は半島で活動する人と知り合えて良かった。
島原半島全体をどう活かして商品化するか。
観光でやっていない人はこういうことを嫌うが、そこをうまくコーディネートしていく必
要がある。
RPI のやり方は、地元の自発性を促すやりかただったと思う。関わる人同士がフィフティー
フィフティーで関係をつくっていった。こういったことが地域力につながり、ひいて
は観光にもつながる。
「雲仙の観光ではなく、島原半島の地域力を高める」
雲仙プラン100はそうあってほしい。
雲仙プラン100でも半島会議でも資源を今は地理ルートで巡っているが、ストーリーや
ジャンルで組み替えたらよい。
ガイドしていた人は、要は自慢話だったが、外の人にはそれを長崎的な気質といていた。
また、石壁や色を塗られた仏像にエキゾチズムを感じたそう。
雲仙温泉は、他地域の団体をもっと知るべき。半島会議も雲仙温泉から参加したのは雲仙
プラン100と少数の青年会会員のみ、もっと積極的に参加しないといけない。
ステージとしての雲仙。島原半島地域のものを発信するもの、紹介するもの、表現するも
のとして。

④「島原半島の人たちと一緒に取り組んでいきたいこと」アイデア集

島原半島のいろんなことを、お互いに知り合うために。そのきっかけとなる調査・イベント

(「情報共有化計画」「地域間交流計画」へのヒント)

中計画分類(案) ／タイプ	名称	したいこと	期待される効果	連携する相手 (氏名・職業・所属)
情報共有化計画 地域間交流計画	島原半島版あるもの探し① 「島原半島フェノロジーカレンダー作り」	・半島全域を対象とした季節暦づくり。 ・自然(地物、動植物)、産業、食、イベントなど分野別の担当を決めてそれぞれがカレンダーを作り、合体させる。 ・食の専門家を講師に呼んで組み立てのアドバイスをいただく。	・地域資源の掘り起こし ・地域間の交流促進 ・情報の共有 ・誘客イベント等が欠けている季節の発見	
情報共有化計画 地域間交流計画	島原半島版あるもの探し② 「地域限定あるもの探し」	・温泉街で実施したのと同様の「あるもの探し」を半島内の特定地域で行う。 ・島原半島キーパーソンから希望を募って場所やテーマを決定。1～2箇所。 ・雲仙温泉からは「風の人」として出かけていって参加。	・地域資源の掘り起こし ・地域間の交流促進	・キーマンの地域
情報共有化計画 地域間交流計画	学生版あるもの探し	・高校生や大学生の感じる、島原半島の資源と、島原半島への思いを発掘したい(資源マップ・フェノロジーカレンダー作り、商品開発、郷土料理など) ・分野別テーマを設定し、それぞれにコンテストを行いたい。		・半島の高校 ・長崎総合科学大学 ・長崎国際大学
情報共有化計画 地域間交流計画	市民による資源調査	・普賢岳の見えるスポットお薦め100選 ・ケータイカメラで投稿する島原半島写真コンテスト ・わが家の自慢料理募集(審査員も地元から) ・地獄蒸し素材募集		
地域間交流計画	きっかけづくり 魅力づくりイベント	・島原半島住民温泉感謝祭 *雲仙を島原半島全体の人たちに大切に思ってもらえるようなイベント *島原半島住民は入浴無料など ・「はだしであそぼう」を活用したイベント *半島の子供たちを招待、ソーメン流しイベント等とセットで実施 ・絹笠山の通景確保のための樹林伐採と、伐採木を活用したイベント *ターザン小屋づくりなど ・中学校吹奏楽部によるお神楽 *半島内向けのイベント、観客も半島内の人々中心。温泉にもはいてもらおう。 *地域芸能を雲仙に呼んで上演してもらおう「郷土芸能の夕べ」。 ・クリーンアップ作戦。 ・広葉樹植樹、「雲仙百年の森づくり」。(「島原半島卒業の森」あり、13年目) ・外来種駆除の活動。		

島原半島活性化のための半島全体が一体となった地域づくりの取り組み（WINWIN 計画）

島原半島の資源を活かした地域間交流やイベント

（「地域間交流計画」「つながるイベント計画」へのヒント）

中計画分類（案） ／タイプ	名称	したいこと	期待される効果	連携する相手 （氏名・職業・所属）
地域間交流計画 つながるイベント計画 ・半島内文化の活用と紹介	創作民話を聞く会	・各ジャンルの民話（紙芝居）を作成し観光客へ案内。 ・足湯で紙芝居など ・宮崎旅館の女将さんとの紙芝居コラボ→温泉街の皆に広げる ・雲仙の温泉内で週末だけでも、聞ける場をつくる ・地獄太鼓との組み合わせ ・エコタツの日の夜に囲炉裏を囲んでの昔話ならぬ、エコタツを囲んでの昔話。明かりはもちろん本多木蠟。	・温泉街来訪客が自然に島原半島を知る機会になる ・宿泊客が街に出る機会づくり ・団体は活躍の場の拡大	有明童話の会 くすのき
地域間交流計画 つながるイベント計画	天草四郎ミュージカル	・わらび座の天草四郎ミュージカルを見たが、素晴らしかった。メモリアルホールで天草四郎を題材としたミュージカルを上演したい。 ・天草四郎など半島内の文化的なものを取り入れた市民ミュージカル。	・雲仙温泉での宿泊につながる ・雲仙温泉で島原半島のこと分かる	
地域間交流計画 つながるイベント計画 ・半島内産品の活用と紹介	流しそうめんイベント	・雲仙の旅館でもっと南島原市でつくられたお味噌やそうめんを積極的にとり入りたい。 ・温泉と橘神社の大門松を使った流しそうめんを参考に、雲仙（傾斜地の活用）で流しそうめんの定期的な大会の開催。 ・雲仙青年観光会主催 福岡宣伝隊でのコラボ。 ・雲仙の既存のイベントとの融合。	・島原半島産の食材活用のきっかけ ・島原半島産品のアピール →半島のショウウィンドウとしての温泉街の役割	
地域間交流計画 つながるイベント計画 ・地域間交流と連携による PR	橘神社のイベントとコラボ	・正月時に雲仙神社、千々石神社、橘神社の三社参りのバスを運行、その時、吾妻の民話紙芝居を披露する。 ・三社参りに雲仙札をつくる。 ・大門松の設営時、雲仙から人手が手伝いにゆく。 ・「エコタツポスター」につづく「門松」を題材にしたおもしろポスターの作成。	・雲仙温泉来訪客へのイベント体験機会の提供 ・半島地域のイベント準備の人手確保に貢献 ・雲仙温泉の PR ・雲仙温泉への集客	・町田岩太（千々石こだわり倶楽部） ・橘神社 ・出店業者（雲仙温泉ゆかりのテキヤがい）を通じての宣伝
地域間交流計画 つながるイベント計画 ・地域間交流と連携による PR	「日本一の足湯」とのコラボ	・雲仙温泉で、メタケイ酸の美肌効果を活用した「日本一の顔湯」をつくる。足湯⇔顔湯で盛り上がる ・ウンゼリーヌが足湯につかっている映像（足だけ着ぐるみを脱いでいる。おゆっぴーとジーオくんとのコラボ）	・温泉効果のアピール ・雲仙と小浜宣伝の相乗効果	・小浜温泉の足湯
地域間交流計画 つながるイベント計画 ・半島内の人々への感謝の場づくり	中学校吹奏楽部によるお神楽	・地域芸能を雲仙に呼んで上演してもらう「郷土芸能のタベ」。 ・半島内向けのイベント、観客も半島内の人々中心。出演料の代わりに温泉につかってもらう。	・半島の人を接待してつながりをつくってゆかなくてはいけない。 ・半島内地域交流の拠点としての雲仙へ	・千々石中学校吹奏楽部 ・郷土芸能団体

島原半島でのオプションツアー、体験プログラムの企画・実施
 (「つながるツアー計画」「つながる体験プログラム計画」へのヒント)

中計画分類 (案) / タイプ	名称	したいこと	期待される効果	連携する相手 (氏名・職業・所属)
つながるツアー計画 つながる体験プログラム計画	「伝統野菜の解説つきの農体験」オプションツアー	・伝統野菜の種の保存に苦労して耕作している農場を訪ね、手作り農作業を体験するプログラム。 ・加工場を見学し、食を通じた交流も楽しむ。 ・これらを生産農家の解説で学習、体験。	・雲仙温泉街での食材利用とからめ、印象深い「体験プログラム」ができる ・ジオのストーリーも深化	守山女性部加工組合
つながるツアー計画 つながる体験プログラム計画	島原市長浜の石干見 (スクイ) 視察ツアー	・地域の特性を活かした伝統漁法、持続可能な漁法を学ぶプログラムとする。 ・時間帯を意識して案内し、「潮の干満と地域の暮らし」「有明海の魚類」などのストーリーづくりも行う。 ・見せる場、環境学習の場として周辺環境整備が重要。	・温泉街と海のつながりをもたせるプログラムになる ・ジオのストーリーも深化	みんなでスクイを造ろう会 (島原市)
つながるツアー計画 つながる体験プログラム計画	和ろうそく体験ツアー	・有明町の本多木蠟工業所を訪ね、日本でも珍しい、今も製造を続けている独特の和ろうそくを専門家の解説・指導によって作る体験ツアー。 ・温泉街でのイベント等での和ろうそく活用も含めて連携を検討。 ・ハゼの実採取、ハゼの木の植林体験などのフィールドワークも組み込みたい。	・島原半島の産業や暮らしの歴史を、普賢岳とのかかわりで紹介することにより、温泉街滞在の魅力を高める ・ジオのストーリーも深化	本多木蠟工業所 (島原市有明町)
つながるツアー計画	口之津柑橘研究所オプションツアー	・島原半島で生まれたかんきつ品種等を紹介		口之津柑橘研究所
つながるツアー計画	原城オプションツアー	・雲仙から原城、歴史を扱ったツアーバスなど、半日程度のオプションツアーを用意 ・「エコタツポスター」につづく「原城」題材にしたおもしろポスターの作成	・キリシタン関連遺跡の連携によるストーリー性の強化	原城跡観光ガイドの会
つながるツアー計画 ・既存プログラム活用	有家の蔵めぐりツアー	・島原半島には数少ないレトロな街並みが魅力。温泉街とは異質な街並みを、食の楽しめと併せて体験してもらう。	・見学中に食 (味噌、そうめん等) を絡められる事が強い魅力	八木英介氏 ヤマコメ醸造
つながるツアー計画 ・観光地どうしの連携	島原武家屋敷などまちなか散策ツアー	・島原市内有数の観光地だが、経験豊富なボランティアガイドの同行・解説により、豊富な湧水やそれを利用した昔の人の知恵など通常は聞けないお話を紹介。	・温泉街で紹介することによって双方に利用者増のメリット	島原観光ボランティアガイド
つながるツアー計画 ・各地域から雲仙へのツアー造成	雲仙へのピクニックツアー	・島原半島各地への来訪者 (例えば橋神社の桜まつりに来た観光客) 向けに、雲仙へのピクニックツアーをつくる。	・温泉街への誘客機会の拡大	
つながるツアー計画 ・地域をつなぐツアー (地域めぐり)	島原半島にある日本一、日本初をめぐるツアー	・千々石の門松、小浜の足湯、サントス (コレジオ) の活版印刷、貿易港としての口之津、日本初のリゾート地雲仙、ゴルフ場、国立公園等の由来を紹介しながら巡るツアー。	・島原半島の歴史とステータスの再確認	
つながるツアー計画 情報共有化計画 ・情報共有と紹介	島原半島ツアーデスクの設置	・ジオコースなど、雲仙温泉街を起点とするオプションプランを販売する窓口。 ・島原半島側からの売り込みを受け入れ来訪者に紹介するとともに、雲仙温泉街側のプラン企画、販売も行う。 ・ツアーの内容が充実後、開設する。	・島原半島各地域と温泉街とのネットワーク形成と連携強化 ・これまでライバル関係にあった観光地とも一緒に宣伝	・島原半島ジオパーク事務局 ・半島内各地のジオサイトや観光拠点 (千々石観光センターなど)

島原半島の素材を活かした地産地消の食やお土産品開発（「地産地消計画」へのヒント）

中計画分類(案) ／タイプ	名称	したいこと	期待される効果	連携する相手 (氏名・職業・所属)
地産地消計画 ・地産地消による食事提供	伝統野菜、有機野菜、無農薬野菜の料理素材としての活用	・デトックスとして、伝統野菜とスバの岩盤浴やかせやの奥さんの精進料理と組み合わせる。 ・「地獄で育った健康野菜」のような雲仙での野菜栽培も検討。 ・伝統野菜を使ったおいしい地獄蒸しの作り方を一緒に考えてほしい。	・安心安全の「雲仙」「島原半島」イメージの強化	・岩崎政利 ・守山女性部加工組合
地産地消計画	地産地消の弁当開発	・守山女性部加工組合では、俵石米と守山の伝統野菜など島原半島内のユニークな食材を集めた弁当を試作。これを基に、温泉街での提供のし方、その場合の食材の組み合わせなども検討し、進化させる。 ・ジオパークや雲仙岳、温泉の紹介などを織り込むことも検討。	・温泉街ホテル・旅館は安心安全を求める顧客ニーズに応えるとともに特色ある食事を提供。 ・生産者側は温泉街で 사용되는ことで産品の付加価値を高める。	・守山女性部加工組合 ・NP0 原城三七〇年の会（俵石米生産）
地産地消計画	雲仙こぶ高菜を生食で提供	・雲仙温泉内の店舗や旅館ホテルで期間限定で、生食で提供する。 ・スローフードの認定を受けたこぶ高菜の現物を見せ、解説付きで提供。	・温泉街ホテル・旅館は安心安全を求める顧客ニーズに応えるとともに特色ある食事を提供。 ・生産者側は温泉街で 사용되는ことで付加価値を高める。	・守山女性部加工組合
地産地消計画 ・特色ある素材を活用したみやげ品開発	和ろうそく関連商品の開発	・特産のゴマを和ろうそく用の玉絞り機で絞ってゴマ油にした商品づくり。 ・和ろうそくを含め雲仙のストーリーをのせた商品づくり、普賢岳の四季の花をあしらったろうそくなどもみやげ品となり得る。 ・ハゼの搾りかすを農家の肥料として使う、搾りかすを焼いた灰を雲仙焼きの釉薬に使うなど、資源循環利用のお手本にする。	・独自性が強く質の高いみやげ品。 ・こだわり、ストーリー性も豊か。 ・ろうそくづくり体験ツアーとセットでアピールすることにより地域性への関心が高まる。	・本多木蠟工業所
地産地消計画 ・半島内商品の雲仙温泉での販売	「じゃがちゃん」の雲仙での販売	・「ピロケ」とのコラボや雲仙レモネードとのセット販売。 ・温泉街朝市出店などに進出。 ・「じゃがちゃん」を食べるウンゼリーヌの映像をつくる。	・販売機会の拡大 ・雲仙温泉での品揃え拡大と特色づけ →半島のショウウィンドウとしての温泉街の役割	千々石観光センター
地産地消計画	南島原名産のそうめんの雲仙での共同販売	・雲仙でそうめん屋を共同出資でつくる。 ・そうめん屋台（リヤカーORワゴン車）。 ※替え玉でなく、替え東 ※各種つゆ、トッピング ※丸亀うどんのようなセルフそうめんも良い ・認定麺職人（製麺技能士）による高付加価値化を図り、雲仙オリジナルの「地獄ぞうめん」の開発によるWINWINを実現。	・販売機会の拡大 ・雲仙温泉での品揃え拡大と特色づけ →半島のショウウィンドウとしての温泉街の役割	陣川健吾（手のべ陣川）
地産地消計画 つながるイベント計画 ・「地獄蒸し」を通じたコラボレーション	雲仙地獄蒸し研究、雲仙地獄蒸しと小浜温泉蒸しとのコラボ	・小浜の温泉蒸し人気にあやかって、雲仙の地獄蒸し料理を研究し、バリエーション拡大と品質改善を進める。 ・野菜だけでなく、地獄で温めたビン牛乳、コーヒー牛乳なども出す。 ・雲仙の地獄蒸しとの相乗効果をねらい、共同宣伝。小浜の温泉蒸しと雲仙の地獄蒸しの味や成分の違いを明らかにしたい。	・産品のPRと高付加価値販売 ・地獄体験のバリエーション拡大	小浜の温泉蒸し
地産地消計画	自然農法によるサツマイモの商品開発	・菌糸を活用した土づくりを進め、独自の自然農法で野菜生産しているグループがあり、産品の味が良いので商品化をプロデュース。 ・雲仙シイタケの菌床（数年間使用後の廃棄物）を同グループの土づくりに使ってもらおう。そのサツマイモを地獄蒸しにするなど雲仙温泉で売り出す。	・産品のPRと高付加価値販売 ・地獄体験のバリエーション拡大 ・安心安全の「雲仙」「島原半島」イメージの強化	自然農法グループ

⑤「半島地域づくり会議 in 島原半島」を通じての連携の可能性評価

半島地域づくり会議を通じて半島内でつながりを作って新しい展開を図れる可能性は多く見られた。

雲仙温泉の側からみると、①活動プログラム面での連携、②料理やみやげもの開発での連携、の二つがあると考えられる。

■「①活動プログラム面での連携」について

- ・すぐにもできるので早めに半島会議に参加していたキーマンとのつながりを活かしたい。
- ・旅館ホテル組合などでもエージェントと組んで着地型観光として進めつつあるので、役割分担した方がよい。

■「②料理やみやげもの開発での連携」について

- ・雲仙温泉は季節感のあるものが少ないという問題を解決するために、まず食材提供の面で組むことが考えられる。
- ・半島内の誰とコンタクトをとるか、対象候補はたくさんあると思うが、まずワーキングのメンバーに知り合いからコンタクトをとっていきたい。
- ・当面の作業として、「島原半島の食のフェノロジー」を守山のグループや一次・二次産業の方々と一緒に作ることを考えたい。
- ・安定供給の問題があるが、特定の季節対応で考えれば解決可能ではないか。

■全体として

- ・①②とも「雲仙と島原半島」の様々なフェノロジーなどのマトリックスを作ってみて、抜けているところを明らかにし、それを埋めていくためのプランづくりを考えていくことが必要。
- ・やれるものは一つでも二つでも今回のプロジェクトで実現させたい。
- ・雲仙温泉での展開を考える際には、活動拠点を設定し、持続的な連携につなげていくことが重要。

■島原半島の人々とのワーキングの進め方について

- ・半島の人々にワーキングに入ってもらうタイミングをどうするか。計画全体の議論にいきなり加わってもらうのはむずかしいだろう。
- ・まずはテーマ別の会合を設定して、そこに入ってもらっていっしょに考えるということになるのではないかな。例えば「おみやげづくり」分科会。
- ・そのためには、こちらがやりたいことをはっきりさせた上で、提示する必要がある。
- ・そうするとワーキングでは、雲仙プラン100の大計画の中でも「半島と連携する計画」をはやめに詰めた方がよい。

2) 島原半島フェノロジーカレンダー（季節暦）の作成

① フェノロジーカレンダー作りの目的

■フェノロジーカレンダーとは？

フェノロジー（Phenology）は、もともと季節の変化に伴う自然界の動植物が示す様々な現象の変化や、その気候あるいは気象との関連を研究する学問を指す。

その地域に生きる動植物や生業やお祭などの季節的な変化を1月から12月までのカレンダーにまとめることで、それぞれの地域の自然（気候や動植物）に応じた文化の特徴を時系列に並べて1年間の推移や自然と文化の関係等を知ることができる。

■何に役立つのか？

地域の資源を地図上の位置情報として整理するマップと違い、フェノロジーカレンダーは、1年の中で知りたい月日の気候、動植物、生業、祭り・行事などの諸情報やそれらのつながりを知る目安となり、地域の資源の時間的整理、関連性の整理に役立つ。

（例）：ある花の開花や山の雪形が田植えの合図となる。

ある作物の収穫時期に神に感謝する集落の祭がある。

【活用のイメージ】

- 地域資源マップや資源解説とあわせたパンフレット、リーフレット作りへの活用
- 地域ならではの自然や文化を活かした観光プログラム作りやツアー・イベント企画への活用
- 資源探しを通じてできた新たな資源や人材のネットワークを活かした商品開発作りへの活用
- 地域の学校や生涯教育での環境学習・地域学習の素材発見のための活用

■島原半島のフェノロジーカレンダー作りにおける横軸項目

大項目	内容案
①気象	■気象の傾向 ・梅雨、台風シーズン、晴天多い、霧氷（花ぼうろ）、雲仙岳の積雪期間、降水量、最高気温、最低気温。
②植物	■半島全域に生育する花のきれいな植物（開花期）、紅葉のきれいな樹木（紅葉期）を紹介。
③野鳥	■半島全域に生息する野鳥を紹介。（主な留鳥、夏鳥、冬鳥、旅鳥が見られる時期）
④農業と料理（里山の食文化）	■島原半島里山の幸（食材）とそれを活かした料理をあわせて紹介 【農業】ばれいしょ栽培、稲作、イチゴ、こぶ高菜、ごま、酪農、花卉 等 【山菜】タケノコ掘り、ツワブキ（あれば） 【郷土食】清酒、そうめん、六兵衛、温泉たまご、湯せんぺい、こぶ高菜料理、大根寿司、じゃがダゴ汁、フェルミエチーズ、鉄火みそ、黒ごま豆腐、ゆず胡椒 等

大項目	内容案
⑤漁業と料理 (里海の食文化)	■島原半島里海の幸（食材）とそれを活かした料理をあわせて紹介 【漁業】 海苔養殖、イカ釣り、イイダコ捕り、あらかぶ釣り 等 【郷土食】 あらかぶ味噌汁、イイダコやわらか煮、いぎりす、エタリの塩辛料理 等
⑥自然に親しむ遊び (ジオパークを楽しむ)	【一般】 山菜採り、海釣り、裸足で遊ぼう、バードウォッチング、スターウォッチング、新緑の森林浴、登山・ハイキング、川遊び、イルカウォッチング、地曳網体験、植樹体験、ゲンジボタル観賞、リソサムニウム白洲上陸、紅葉狩り、花ぼうろ見学 等
⑦行事・祭り・風習	・寺社仏閣にまつわる伝統行事・祭祀、地域のイベント等 【半島全域】 一般的な行事（鬼火焚きのような） 【雲仙市】 小浜温泉湯まつり 等 【島原市】 島原温泉ガマダス花火大会 等 【南島原市】 みそ五郎まつり 等

*上記を参考に強調したい資源、必ず盛り込みたい内容を決めていく

*③野鳥：動物とする場合もあるが、哺乳類、昨今作物への獣害の影響もありあまり歓迎されないため野鳥に限定した。

*⑦以外で場所が特定される資源には注記する。（例：花ぼうろ（雲仙岳））

② 作成の行程

・ワーキンググループを5つ程度のグループに班分けし、下記の分野を分担して文献や有識者へのヒアリングなどにより情報を収集しながらワーキングごとに内容を精査しながら充実させていった。

※集めた情報と時期・期間は、必ず根拠となる出典や情報源を明確にすることに留意した。

大項目（分野）	班分け
①気象	ベースとして事務局で案を作成
②植物、③野鳥	1 班
④農業と料理（里山の食文化）	2 班
⑤漁業と料理（里海の食文化）	3 班
⑥自然に親しむ遊び	4 班
⑦行事・祭り・風習	5 班

③ 作成結果

次頁を参照。

島原半島の四季		通年資源		1月【睦月】		2月【如月】		3月【弥生】		4月【卯月】		5月【皐月】		6月【水無月】		7月【文月】		8月【葉月】		9月【長月】		10月【神無月】		11月【霜月】		12月【新定】	
月【和名月】		上旬・中旬・下旬		上旬・中旬・下旬		上旬・中旬・下旬		上旬・中旬・下旬		上旬・中旬・下旬		上旬・中旬・下旬		上旬・中旬・下旬		上旬・中旬・下旬		上旬・中旬・下旬		上旬・中旬・下旬		上旬・中旬・下旬		上旬・中旬・下旬		上旬・中旬・下旬	
島原半島の生業と食べ物	漁産物の旬 (漁獲時期)	●鰺(産量多)		●シラサギ		●あらかみ汁(産年)		●シラサギ		●あらかみ汁(産年)		●シラサギ		●あらかみ汁(産年)		●シラサギ		●あらかみ汁(産年)		●シラサギ		●あらかみ汁(産年)		●シラサギ		●あらかみ汁(産年)	
	有明海	●シラサギ		●あらかみ汁(産年)		●シラサギ		●あらかみ汁(産年)		●シラサギ		●あらかみ汁(産年)		●シラサギ		●あらかみ汁(産年)		●シラサギ		●あらかみ汁(産年)		●シラサギ		●あらかみ汁(産年)		●シラサギ	
	魚介類・海藻など	●シラサギ		●あらかみ汁(産年)		●シラサギ		●あらかみ汁(産年)		●シラサギ		●あらかみ汁(産年)		●シラサギ		●あらかみ汁(産年)		●シラサギ		●あらかみ汁(産年)		●シラサギ		●あらかみ汁(産年)		●シラサギ	
島原半島の楽しみ方	魚介類・海藻の加工品含む料理	●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)	
	橋渡し	●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)	
	魚介類・海藻の加工品含む料理	●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)	
島原半島の楽しみ方	水産物の旬 (漁獲時期)	●シラサギ		●あらかみ汁(産年)		●シラサギ		●あらかみ汁(産年)		●シラサギ		●あらかみ汁(産年)		●シラサギ		●あらかみ汁(産年)		●シラサギ		●あらかみ汁(産年)		●シラサギ		●あらかみ汁(産年)		●シラサギ	
	河川	●シラサギ		●あらかみ汁(産年)		●シラサギ		●あらかみ汁(産年)		●シラサギ		●あらかみ汁(産年)		●シラサギ		●あらかみ汁(産年)		●シラサギ		●あらかみ汁(産年)		●シラサギ		●あらかみ汁(産年)		●シラサギ	
	魚介類の加工品含む料理	●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)	
島原半島の楽しみ方	自然に親しむ遊び・体験プログラム	●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)	
	体験プログラムや遊び	●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)	
	生業に関わる体験プログラム(農業・漁業・創作)	●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)	
島原半島の楽しみ方	引き継がれる祭り・風習・伝統行事	●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)	
	行事・イベント	●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)	
	行事・イベント	●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)		●あらかみ汁(産年)	

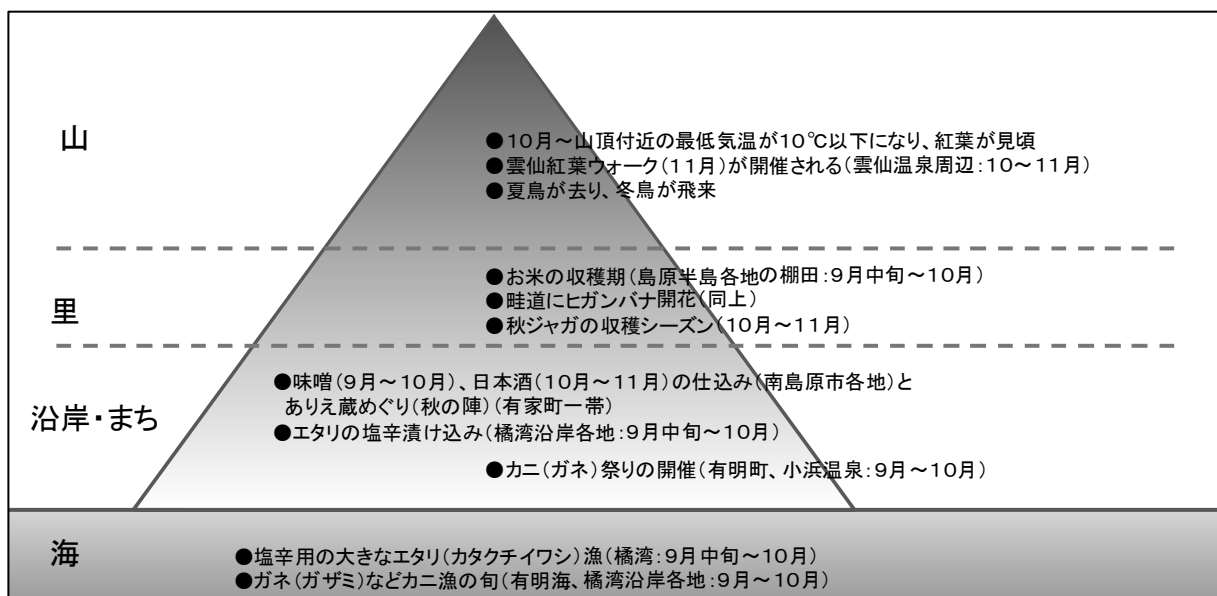
④ 結果の活用

フェノロジーカレンダーの作成と併せて、第3回島原半島WGにおいて、フェノロジーカレンダーの活用について「島原半島は、国立公園や料理等いろいろな魅力はある。これを、半島独特の地形的特徴である、垂直分布を切り口として整理すると面白いのではないか。フェノロジーカレンダーを、四季軸と標高の関係を漫画で表現できると面白い。是非、島原半島ならではのフェノロジーカレンダーをつくりたい。」との意見があり、いくつか活用案も示すこととした。

a) 季節ごとの垂直分布によるフェノロジー表現（案）

（例）秋の島原半島の楽しみ（9月～11月）

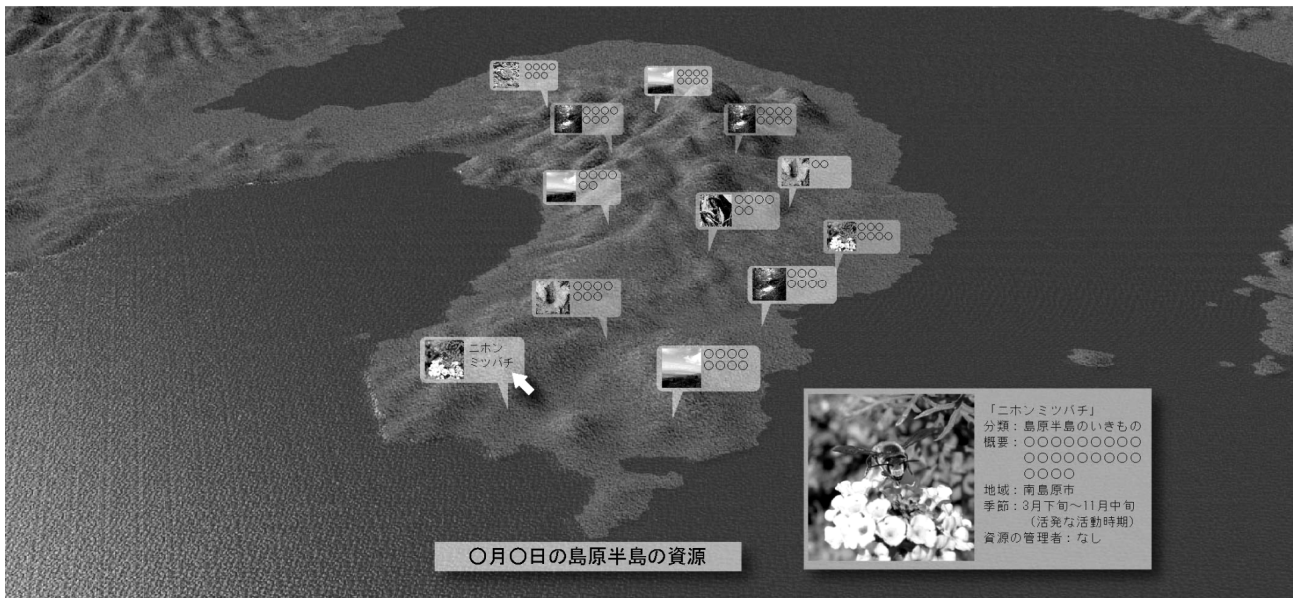
- ・ 9月のお彼岸近くになると、島原半島では、陸でも海でも秋の収穫シーズンを迎え、里は一気に活気づく。
- ・ 里の秋の味覚、秋ジャガが旬を迎え、棚田では畔道にヒガンバナが咲いたのを合図に、お米の収穫が始まる（～10月）。
- ・ その頃、海では、ガネ（ガザミ）などカニ類が一年でも特に美味しい時期となり、ガネ祭り（有明町10月）、夕焼けカニ祭り（小浜温泉9月～10月）等が開催される。さらに、橘湾では、一年間待ちわびた漁師たちが、大きく成長した塩辛用のエタリ（カタクチイワシ）を捕り、珍味である、エタリの塩辛の漬け込みが行われる。
- ・ 10～11月、雲仙岳山頂付近では最低気温が10℃以下となり、オオカメノキやヤマボウシ等の紅葉が一気に進み、雲仙紅葉ウォークが開催される。
- ・ 夏鳥（オオルリ）が去り、冬鳥（ルリビタキ）が飛来する。
- ・ 冬の使者、シーズン初の霧氷がお山を白くする頃、街では蔵が活気づく。
- ・ 醸造では味噌が9月から10月まで、日本酒も10月から11月までが仕込み時期となる。



b) 3Dイメージによるフェノロジー表現（案）

将来の活用方法として、フェノロジーカレンダーの情報を追加・発展させることもできる。資源のカテゴリーで表示したり、季節や月で表示したり、地域で表示したりと、見たい情報に絞って、表示することが出来るので、活用・汎用性が高いと思われる。

3Dイメージによるフェノロジー表現



※3Dイメージ作成に必要なデータベース項目（想定）

- ・資源名
- ・資源分類（植物、野鳥、歴史、穀物・野菜・果物、魚介類・海藻、体験プログラムや遊び、引き継がれる祭り・風習・伝統行事、行事・イベント）
- ・資源の概要
- ・市町村名
- ・地名、地点名、エリア名
- ・旬の季節（月、上旬・中旬・下旬）
- ・資源の管理者
- ・公表の程度（一般に公開可、公表注意、公表不可）
- ・地点やエリアの緯度経度、標高
- ・各情報の入手元
- ・詳細情報（HP等）
- ・リンク情報

3) 南島原市あるもの探し

① 開催概要

○目的

南島原市を中心に、島原半島の魅力・すばらしさを再確認・再発見するとともに、半島の人たちがお互いの地域や人を知りあい、みつけた魅力の保全・活用・伝承、また交流や連携のきっかけを掴む機会とする。南島原市の地元の方（土の人）の案内のもと、島原市や雲仙市などからの来訪者（風の人）と一緒に地域の魅力を探し出していく『あるもの探し』を実施することで、半島一体となった地域振興に向けた機運を高めていく。

○日時・開催地

平成 23 年 7 月 31 日（日）10:00～17:00／南島原市周辺

コース名	概要	案内
I. 口之津コース	口之津港と共に繁栄衰退を繰り返してきた口之津町。日本一とも言えるであろう賑わいが三度もあった。日本第 1 号として世界ジオパークに認定された島原半島ジオパークのはじまりの場所でもある早崎半島をさらくコース。	原田建夫氏(口之津民俗資料館館長)
II. 原城(跡周辺)コース	島原の乱終焉の地「原城跡」。立て籠もった一揆衆約 3 万 7 千人に対し、幕府側の討伐軍は 12 万人以上にもなり、陸と海から原城を包囲した。島原の乱に纏わる遺構を中心に原城跡周辺をさらくコース。	内山哲利氏(原城跡観光ガイドの会代表)
III. 北有馬(日野江城下町)コース	日本を代表する文学者である遠藤周作が残した、セミナリヨや日野江城に関する作品を、実際に著者が巡った古道を辿りながら回想するとともに、北有馬町内のキリシタン史跡をさらくコース。	佐藤光典氏(有馬つんなも会 会長)
IV. 西有家コース	島原手延そうめんとみそ五郎の里、西有家町。古くから良質の小麦がとれ、雲仙の豊かな湧水と、温暖で乾燥した気候に恵まれた地域であり、300 有余年の歴史を持つそうめんは全国第 2 位の生産量を誇る。島原そうめんの町、西有家須川周辺をさらくコース。	高橋泰介氏
V. 白木野コース	南有馬町北西部に位置する白木野地区。棚田百選の「谷水棚田」を有する農業が盛んな地域であり、平和祈念像を作成した北村西望翁の出身地でもある。自然豊かな集落、そこに働く人々とその暮らしを訪ねてさらくコース。	馬場武氏 (南有馬棚田保存会会長)

○参加者数

地元住民等 18 名、来訪者等 27 名：計 45 名

○開催コース

図 南島原市コース紹介（全体図） 参照

○実施方法

- ・ 事前に、資料 1（『南島原市の魅力を再発見！ 南島原あるもの探し参加者募集』チラシ）を配布し、参加者募集を行った。
- ・ 南島原あるもの探しの実施にあたっては、資料 2（『島原半島を元気にする「あるもの探し」の実践手引き』）にもとづき行った。

■図 南島原市コース紹介（全体図）



■資料1 『南島原市の魅力を再発見！ 南島原あるもの探し参加者募集』チラシ



南島原市の魅力を再発見！



南島原あるもの探し参加者募集

＜日時＞ 平成23年7月31日(日)
※雨天決行 **10:00集合17:00解散**

＜場所＞ 南島原市内 5か所

＜集合＞ 原城文化センター

＜参加費＞ 500円～1,000円程度
※コースによる(昼食、保険料含む)

＜コース＞

①口之津コース

③北有馬コース

⑤白木野コース

②原城コース

④西有家コース

詳細は中面参照

主催：福岡県九州地方環境事務所、雲仙プラン100プロジェクト 島原半島ワーキング

＜あるもの探とは＞

「あるもの探し」とは、地域の魅力は、地域の人だけでは気づきにくいこともあることから、地域の人達と一緒に、交流しながら、地域の魅力(お宝)探しを行う活動です。

「南島原あるもの探し」では、南島原市の地元の方の案内のもと、島原市や雲仙市などからの参加者が一緒に魅力探を行います。名所や旧跡だけでなく、地域の暮らしの中に当たり前にあるけれど、外から見れば見えていない魅力や、ひとつでも多く探出していこうと考えています。

「あるもの探し」を通じて、島原半島の魅力・すばらしさを、自分たちが再確認・再発見するとともに、半島の人達がお互いの地域や人をわか合い、みつけた魅力の保全・活用・伝承、また交流や連携のきっかけになることを期待しています。

南島原市あるもの探し 参加申込書

雲仙プラン100事務局 宛 FAX 0957-73-2224

参加ご希望の方は、以下に必要事項をご記入の上、雲仙プラン100事務局までFAXいただくか、下記内容をE-MAILでお送りください。申込者には、あらためて詳細をご連絡します。

ご氏名(ふりがな)	男性・女性
ご住所	都・道・府・県 区・市・町・村
年齢	歳
連絡先 (当日連絡がとりやすいもの)	
緊急連絡先	
参加希望コース	() 1. 口之津コース () 2. 原城(跡周辺)コース () 3. 北有馬(日野江城下町)コース () 4. 西有家コース () 5. 白木野コース
ご質問等	

※個人情報の取り扱いについて：参加申し込みの際にいただいた個人情報は本プロジェクトのみに使用いたします。
※記録写真の撮影について：本プロジェクトの記録写真に必要に応じて、参加者の写真や動画を撮影する場合があります。あらかじめご了承ください。

【持ち物】
汚れてもいい動きやすい服装、タオル、帽子、飲み物(水筒)

◆申し込み・お問い合わせ先
雲仙プラン100プロジェクト事務局
住所：〒854-0621 長崎県雲仙市小浜町雲仙320 雲仙お山の情報館別館内
TEL & FAX 0957-73-2224 (お電話対応時間・・・平日9時～17時)
E-MAIL: project@unzen100.org URL: http://unzen100.org/index.html (詳細はHPをご覧ください)

表紙・裏表紙

1. 口之津コース

口之津港と共に繁栄衰退を繰り返してきた口之津町。なんと日本一とも言えるであろう賑わいが三度もあった。また、世界ジオパークに認定された日本第1号の島原半島ジオパークのはじまりの場所である早崎半島、早崎半島をさくらコース。

口之津歴史民俗資料館⇒南蛮船平航の地⇒白浜海水浴場⇒瀬崎灯台(早崎玄武岩)⇒あこう群落⇒口之津灯台⇒(口之津歴史民俗資料館)



◎昼食：すだち「あらかぶのから揚げ定食」 ◎ちよいパック「よもぎまんじゅう」

4. 西有家コース

島原手延そうめんとみそ五郎の里西有家町。島原手延そうめんは300有余年の歴史を持ち、古くから良質の小麦がとれ、雲仙の豊かな湧水と、温暖で乾燥した気候に恵まれた地域であり、全国第2位の生産量を誇る。そんな西有家(須川)周辺をさくらコース。

西有家庁舎(みそ五郎像)⇒そうめん神社⇒そうめん工場見学⇒みそ五郎橋⇒西有家港周辺⇒吉利支丹墓碑⇒流死供養塔⇒そうめん細工見学⇒(西有家庁舎)



◎昼食：麺商(須川)面喰い ◎ちよいパック「黒糖万十」

2. 原城(跡周辺)コース

島原の乱終焉の地「原城跡」 立て籠もった一探索の数は老若男女合わせ約3万7千人。幕府軍は約12万人。島原の乱に纏わる遺構を中心に原城跡周辺をさくらコース。

原城文化センター⇒浦田観音(甬道跡)⇒大手門跡⇒板倉重昌の碑⇒(はねかみ地蔵)⇒原城本丸跡⇒鈴木重成建立供養碑⇒(原城文化センター)



◎昼食：郷土料理(南島原市産物による) ◎ちよいパック「ソーダまんじゅう」

5. 白木野コース

南島原市南有馬町北西部に位置する白木野地区は、棚田百選の谷水棚田を有し、農業が盛んな地域であり、平和祈念像を作成した北村西望翁の出身地でもある。そんな自然豊かな白木野をさくらコース。

西望公園・記念館⇒原河(洗い場)⇒白木野基盤整備⇒しろこ観音⇒大池⇒上原(伊之助の笠石)⇒白木野棚田(生きもの調査)⇒(原城文化センター)



◎昼食：郷土料理(南島原市産物による) ◎ちよいパック「ソーダ万十」

3. 北有馬(日野江城下町)コース

日本を代表する文学者である遠藤周作が残したセナリヨ、日野江城に関する作品を、実際に遠藤周作が歩いた古道を巡りながら回想すると共に北有馬町内のキリシタン史跡をさくらコース。

ピロティ文化センター⇒有馬セナリヨ跡⇒遠藤周作のぼった道⇒日野江城本丸跡⇒青面金剛像⇒観心寺⇒有馬川殉教地⇒石機群⇒(ピロティ文化センター)



◎昼食：南蛮料理 ◎ちよいパック「とらまき」

南島原市コース紹介



中面

III-5-(2)-27

＜あるもの探しの心得＞地元の方(土の人)が地域外の人(風の人)を案内しましょう。

(土の人)

- ・ 土の人は、行く先々の史跡、植物、食べ物、遊び、家、畑道具、眺望点、人、景観、伝説の地、道、川、水など あらゆるものについて、ご存じのこと、昔聞いたこと、昔遊んだことなど、体験談も含め何でも良いので、お話しください。
- ・ また、風の人に尋ねられたことに対して、知っていることを、お話しください。わからないことは、わからないで大丈夫です。(※後で、調べましょう！)
- ・ その知識が学術的に正しいかどうかは重要ではありません。生きてこられた中での生の話に価値を見出したいと考えています。

(風の人)

- ・ 風の人の中で、写真係など、決めておくと、やりやすいでしょう。
- ・ ただし、質問、メモは全員が関わしましょう。
- ・ 価値のあるものだけではなく、気になったら、何でも、尋ねたり、撮影していきましょう。
- ・ 取材は、地元の人に地域での呼び方や使われ方、食べ方、歴史、いつ頃からあるのか、何故ここにあるのか、意味など、何でも良いので、聞いてみたいことを尋ねましょう。
- ・ 人であれば、何に詳しいのか、何が得意なのか、何の名人なのか等、尋ねてみましょう。
- ・ メモは、地元の人に聞いたことを、地元の言葉で記録しましょう。

(調べるときの心得)

- その1 地元の人(土の人)と地域外の人(風の人)で、一緒に調べよう。
地元(土の人)だけでは独りよがりになり易いからです。
- その2 地域情報をデータベース化する。
名所、旧跡だけではなく、地域の生活現場に当たり前にあるものを探して「地域資源カード」にしていけます。どんなものでも「お宝」になり得ます。
案内された(した)資源だけでなく、その道中にある、「なんだこれ?」「おもしろいぞ!」と、心に引っかかったものは、どんどん土の人に質問(そこで分からなくとも、帰ってきて調べても良い)し、資源として拾っていきましょう。(寄り道歓迎!)
- その3 現場に出かけて調べる
自分で足を運び、見て、聴いて、そこにある事実にして調べ、考えます。
- その4 先入観を捨てて聴く
必ず地元の人に聴いて、書く。調べる人の経験で勝手に推し量らないように。
- その5 対等の立場で聴く
啓蒙したり、するような話はNGです。目線は同じか、低くして聴きましょう。
特に子供たちにはそうしたいです。
- その6 実際にやっていることや使っているものについて聴く。
「商売はどうですか」と聞くのではなく、いつ頃から商売をされているのか、何を作っているのか、仕事の中で嬉しいことは何か、こだわりの道具は何と呼ばれ、何に使っているか・・・など、暮らしの中で実践されている「事実」を聴きましょう。

＜地域資源カードづくりの心得＞

地域にあるものを探して来たら、地域資源カードを作成します。

聞き忘れたことや、資源カードを作りながら更に知りたいことがある場合は、土の人に聞きながら作り込みましょう。また、写真だけがある場合なども、同様です。

しっかり糊付けして、
写真を貼ります！

タイトル(短い見出し)

キーワードを記入します。

ニッケ・だご
団子・有用植物
地区：水俣市 石飛

タイトル：ニッケとだごの葉 キーワード：香り

年 月 日 製 作 者

家の周りには有用植物がいっぱいある。だごの葉もニッケも、だんごを包んで煮ると良い香りがつくという。ニッケの葉をかんでみると懐かしい浅田アメの味がした。ニッケは根の方が香りが強く子供の頃はそれを掘り出して味を楽しんだ。もちろん大人には怒られた

縦書きには、写真の説明
簡単な説明を書き込みます。

横書きには、詳しい説明。

意味、いわれ、使い方など、聞き取りした内容を書き込みます。

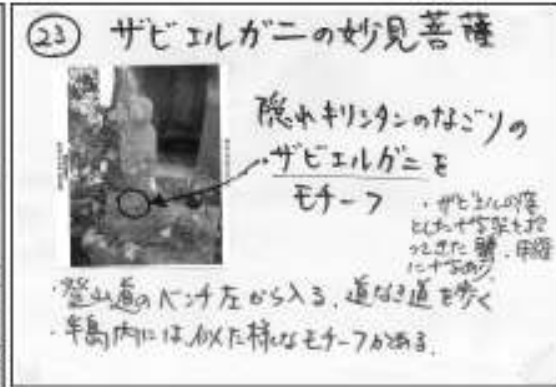


平成22年3月に
雲仙で実施した際の
資源カード

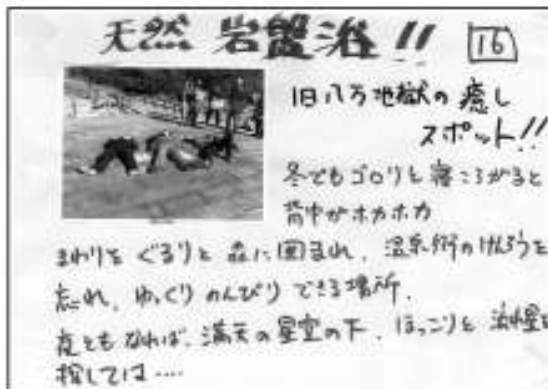
<実際に雲仙でつくられた資源カード例>



雲仙温泉街の中で特別な消火栓を発見!



仏像の足元に隠れキリシタンの名残をみる。



旧八万地獄で、前庭で体感した地熱。



雲仙ロープウェイの方にお話しを伺った。

<活用アイデア提案の心得>

発掘した資源を地域づくり(地域を元気に!)に活かそう!

今回は、「**発掘した資源をどう磨き上げれば、地域が元気になれることに活かせるか!**
＝そのために必要な取組をみんなで考えよう!」というアウトプットにしたいと思いま
 す。

各班で発掘した資源やその周辺の環境などを協働し、**自分たちのコースの中の資源に
 ついて、「こんな活用ができれば、地域が元気になるのになあ!」「こんなふうに、残す
 ための努力をした方が良い!」「こんなことができれば、もっと、この資源が活かせる
 ぞ!」と、今後、実行したいアイデアを発表してもらおうと思います。**

② あるもの探しイベントの企画検討経緯

『あるもの探し』の実施に際しては、雲仙プラン 100 プロジェクトの「島原半島ワーキング」のメンバーが主体となり、ワーキング会議の中でイベントの企画、運営等を行った。

第2回ワーキング会議において、ワーキングメンバーから寄せられたアイデアをもとに開催地を協議し、1回目のあるもの探しを、南島原市の歴史、農業、製造業、ジオなどに光を当て、そのものに関わっている土地の人（土の人）に案内をお願いしながら、実施することに決定した。

その後、ワーキングメンバーからのアイデアを踏まえ、詳細計画（対象エリアや実施時期、タイムテーブル案など）案を検討し、当日は南島原市役所の職員をはじめ、南島原の多くの方に賛同・協力いただき、実施できる運びとなった。

③ 開催結果

○プログラム

- 10:00 集合・開会（原城文化センター）
- 10:10 あるもの探しの進め方解説、コース（班）別ミーティング
- 11:00 フィールド調査（全5コース）
各コースで昼食
- 15:00 見つけた資源のまとめ
- 16:30 コース別に発表
- 17:00 閉会・解散

○準備

1. 当日実施スケジュール・役割分担表も含め（集合から解散まで）
2. 各班のコーススケジュール・役割分担表も含め
3. 当日コースの案内人（土の人）の調整・依頼
4. 機材等準備（デジカメ、パソコン、プリンター、記録用紙、画板等）

○実施内容

i 集合・開会

＊雲仙プラン 100 プロジェクトワーキングメンバーより開会の挨拶を行った。

ii あるもの探しの進め方解説、コース（班）別ミーティング

■あるもの探しの進め方解説



＊自然保護官より、あるもの探しの実施方法や心得を、配布資料（「あるもの探し」実践手引き）に沿って説明。

＊「島原半島各所の魅力を掘り起こすため、本日は南島原市を拠点に、地域内外の参加者と一緒に、地域資源の再確認・再発見をしてもらいたい。あるもの探しを通じて、お互いの地域のすばらしさを知り合い、新たな交流のきっかけができるとよい。」と挨拶。

■コース（班）別ミーティング

＊コース毎に全5グループを編成。

＊グループ毎に、各自名札を作成ののち、簡単に自己紹介。

＊各コースの案内を引き受けていただいた地元ガイド等（土の人）を中心に、準備された地図等を見ながら、当日まわるコース等について参加者同士で確認。

iii フィールド調査

■5コースに分かれコース毎に踏査

＊地元住民等（土の人）が、来訪者（風の人）を連れ、コース内を案内・解説し、資源を（お宝）を探索した。

＊参加者は、各自気になった物事、解説者から聞いたことなどをメモ用紙、写真に記録しながら調査を進めた。

フィールド調査の様子



iv 昼食

■昼食をとりながら参加者同士で交流会

＊昼食は、口之津では「あらかぶの唐揚げ」、北有馬では「南蛮料理」など、各コースで特色をもったものとなった。

＊原城、白木野コースの参加者は、南島原の郷土料理（地元農産物を使った料理）を囲み、料理をふるまってくださった地元の方々とも交流を図ることができた。

v みつけた資源のまとめ

■資源カードの作成

＊班ごとに、踏査でのメモ・写真に基づき、見つけたお宝（資源）の「資源カード」を作成。資源カードには、資源のタイトル、資源の概要、資源の詳細説明などを記載した。

vi 発表

■各コース（班）での発表



＊「風の人」が中心となり、「土の人」とともにコースをまわった感想や、各班で作成した資源カードについて、参加者全員に対して説明を行った。

＊ワーキングメンバーからは、今回発見した地域資源について、「さらに深く掘り下げることで、資源の持つストーリー性を活かした活用法を考えていきたい」といった意見や、「温泉街で南島原の農産物を提供したい」など、雲仙温泉街と南島原の連携を具体化していくことへの前向きな意見も聞かれた。



vii 閉会

＊自然保護官より閉会の挨拶が行われた。今回の出会い・交流をきっかけに、今後も積極的にアイデアを出し合い、島原半島全体の活性化につなげてほしい、との挨拶でしめくられた。

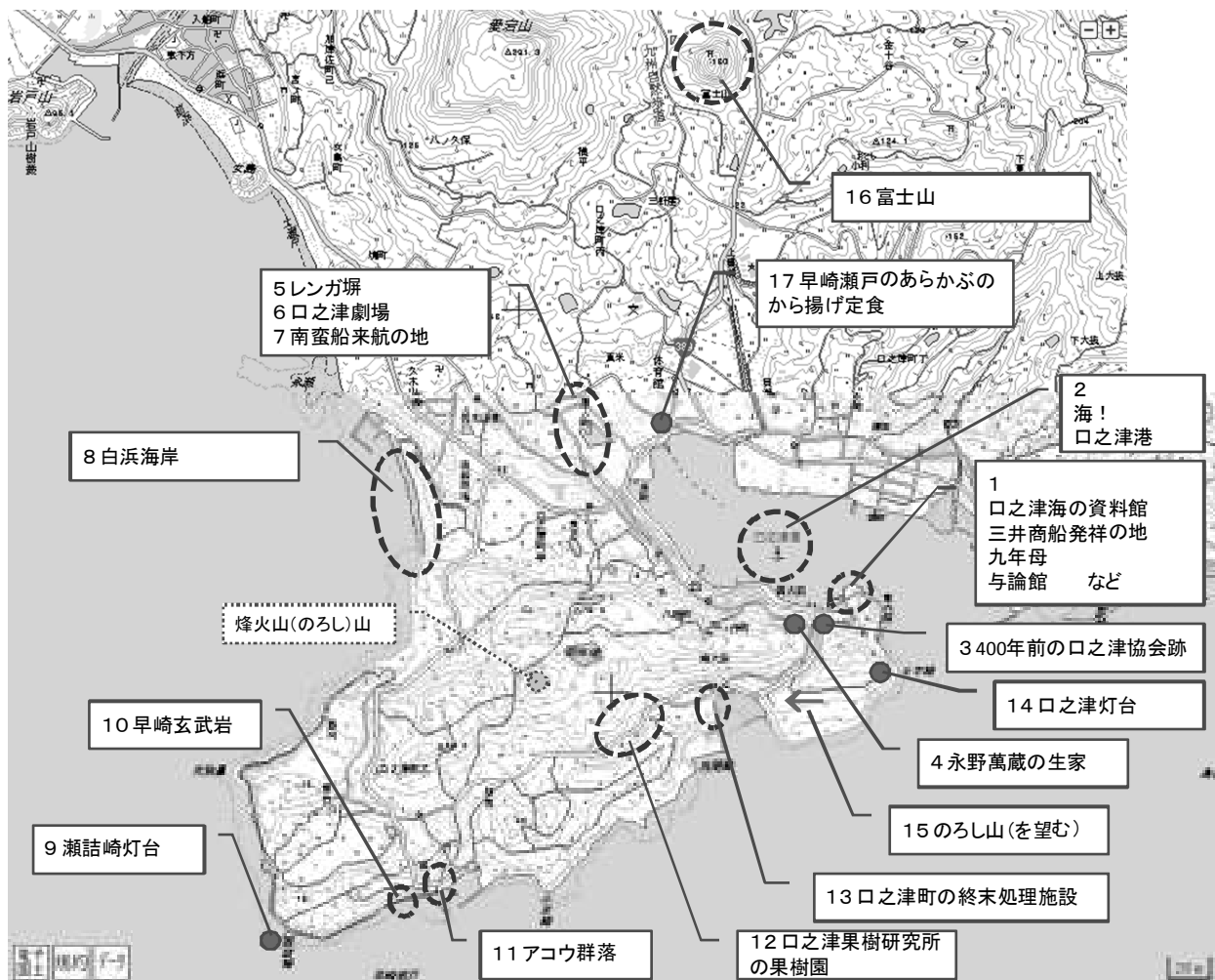
④ 結果

Ⅰ. 口之津コース

口之津港と共に繁栄衰退を繰り返してきた口之津町。日本一とも言えるであろう賑わいが三度もあった。日本第1号として世界ジオパークに認定された島原半島ジオパークのはじまりの場所でもある早崎半島をさらにコース。

案内：原田建夫氏（口之津民俗資料館館長）

図 「口之津コース」踏査資源



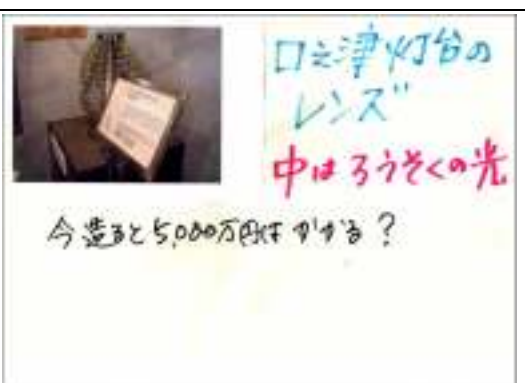
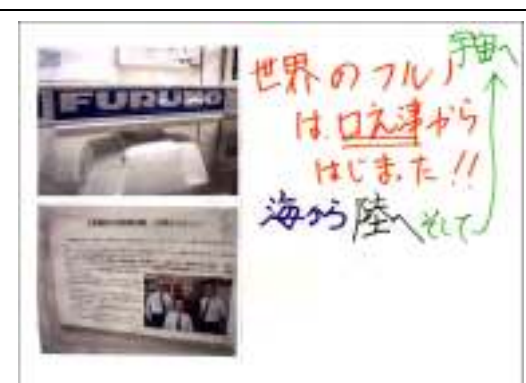
■「口之津コース」周辺資源一覧

資源分類										
自然資源			人文資源				地点	資源名称	キーワード・キャッチフレーズ	資源詳細内容
動植物	地形地質	景観	その他	歴史資源	公園利用施設	生活文化				
				●	●	●		1	口之津海の資料館	奥にあと4つの建物。稍間もあり。
				●		●		1	海外のお土産品	今では、持ち込み不可の物があります。
				●		●	●	1	口之津キャンデー	昭和30年頃
				●		●		1	馬比寿さまの鬼瓦	大漁を祈念！
				●				1	口之津灯台のレンズ	中はろうそくの光
							●	1	世界のフルノ	宇宙へ
				●		●		1	ある旦那の豪遊のあと(領収書)	五千:60銭(6,000円) 金川焼き:1円20銭(12,000円) 茄子遊び:1円20銭(4時間)(12,000円)延長1時間30銭(3,000円)
				●		●		1	オリーブ	小豆島より寄贈された 小豆島から「島原の乱」後にかなりの人数が島原半島へ→小豆島町と姉妹都市。
				●		●	●	1	三井商船発祥の地	石炭を運ぶ船会社、商船三井。外国航路の船員が日本一多い町でした。
				●		●		1	口之津税関のガラス	口之津税関のガラスは、明治32年の当時のソーダガラスがそのままはまっている。長崎県の有形文化財。
				●		●		1	マルガリータ	「マルガリータ」は村木嵐作。 ヨローツバ人は夏にきて冬に帰るまで、口之津に半年は住んだ。 輸入品:生糸、絹織物、香料 輸出品:硯銀山からの硯が中心(当時の世界の1/3)、硫黄(火薬の原料)←雲仙地獄から
				●				1	永野萬蔵	日系カナダ移民第一号

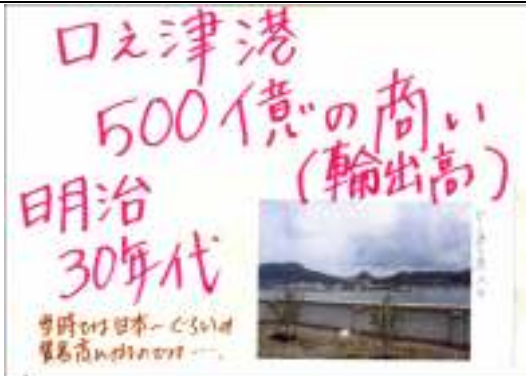
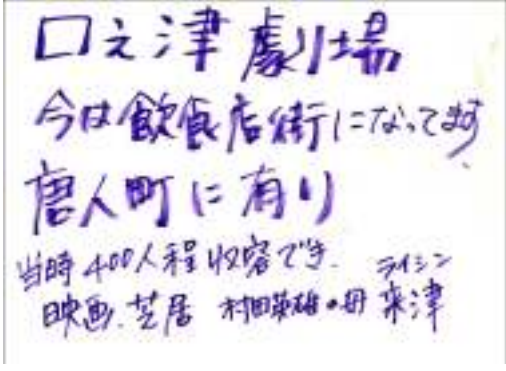
資源分類											
自然資源				人文資源				地点	資源名称	キーワード・キャッチフレーズ	資源詳細内容
動植物	地形地質	景観	その他	歴史資源	公園利用施設	生活文化	人材				
				●		●		1	自転車	鉄の車輪	明治20年代、英国製で日本に2台の超レア。どんなところで使っていたのだろうか？
						●	●	1	九年母(くねんぼ)	デコボコの初まり	インドシナ半島より、国立果樹研究所口之津にある。
				●		●		1	鳥論館	ヨロン島との深いつながり	姉妹都市最大1260名の移住。明治32～34年、号誌から口之津へ移住(石炭省役)
●				●		●		1	ジャカラダ	6月に咲く紫の花	花の色は紫色で小浜の海岸道路に状山ある。口之津の末娘さんが小浜の草野王二郎氏へ。
				●				2	海1	英年21012年、口之津開港450年。港を元に3度の日本一	①440年前の戦国時代、黒船船来航 ②明治時代の三井三池石炭の積み出し港 ③外国航路船員輩出 日本一
				●		●		2	口之津港	輸出高、500億の関	明治30年代、当時では日本一(らしい)の貿易高になるのでは？
							●	2	口之津港	口之津？	有明海の入口の港(漢)の意味。
				●		●		3	400年前の口之津教会跡		400年前口之津にはヨーロッパ人が溢れ残すも横文字であった。 (平成18年4月建立、四ヶ国語の説明板があります。)
				●		●		4	永野萬蔵の生家	レンガ塙	防火壁のレンガが明治のステータスシンボル。未だに口之津の町の中に点々と残っています。
				●		●		5			レンガ塙が明治のステータスシンボル。
				●		●		6	口之津劇場	唐人町にあり	今は飲食店街になっています。 当時400人程収容でき、映画、芝居、村田秀雄の母、来津(らしい)しん。
				●		●		7	南蛮船来航の地	440年前口之津港に	町はヨーロッパ人で溢れていた。 すぐ近くに口之津城、唐人町あり。
		●		●		●		8	白浜海岸	供養塔	霊仙にきていた避暑客も沢山訪れた白浜海岸。 「クリンダン島神」や「島原大変化後述蔵」の津波の被災者(流死)の供養塔がある。
		●		●		●		9	瀬崎崎灯台	満潮さかまく早崎瀬戸	ここで、遭難船が多かった。
	●							10	早崎玄武岩	住民が守った岩	430年前の噴出物。 「これは地域の宝である」と、住民にジオパークの説明。ある日、持って行かれそうになったが、それを聞いていいた住民が、取り戻した。
●								11	アコウ群落	南鳥原市の市木	樹齢は400～500年？大切な防風林。涼しい。(別名しめ殺しの木)イチジクの仲間、よもさく万十の葉で殺菌作用あり。

資源分類									
動植物	自然資源				人文資源				資源詳細内容
	地質	地形	景観	その他	歴史資源	公園・利用施設	生活文化	人材	その他
									1,000連類程の果樹。
									口之津町の終末処埋施設は南富船の形をした事務所。
									明治13年(1880)5月10日初点灯。当時の建設費は、1,757円。全国で43番目、九州で8番目、長崎で3番目、島原半島で1番目！ 灯台と同じライトが資料館に展示してある。
									大宰府まで烽火(のろし)。
									国土地建院に載っている中では、一番小さな富士山(180m)、みそ五郎の民話があります。 頂上まで遊歩道あり。 伝説もあり。
									食事処「すだち」のからあげ定食。 水深100mに住むあらかぶは色が赤い。
									原城の乱(1637)のたった一人の生き残り、南蛮絵師の山田与茂作(右衛門作)が、クルミの油で絵を描いた事で万十の「生地」にはクルミが練り込んである。 「あん」は季節で変わる。かぼちゃ、薩摩芋等。 「葉」はあこうの葉(殺菌作用)を使用する。
									くさびを焼く→2骨を取り出し身をほぐす→3すり鉢ですりつぶす→4味噌を加えて更につぶす→5水で薄める→6飯は重飯に照る

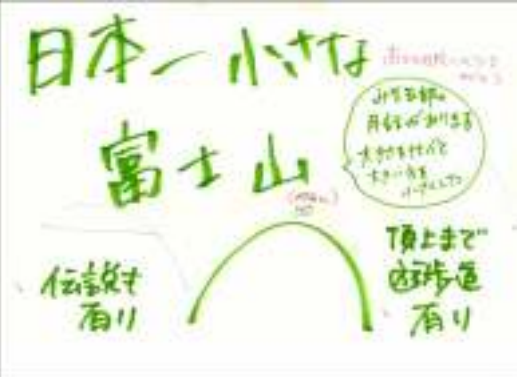
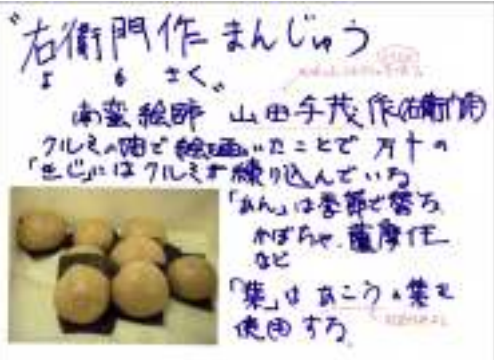
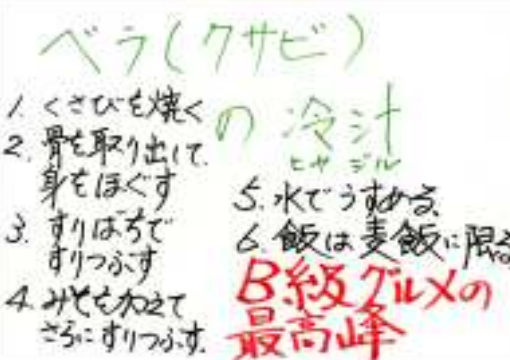
■「口之津コース」資源カード

図表対応番号－1 	図表対応番号－1 
図表対応番号－1 	図表対応番号－1 
図表対応番号－1 	図表対応番号－1 
図表対応番号－1 	図表対応番号－1 

図表対応番号－1	図表対応番号－1
三井船舶自発祥の地 石炭を運ぶ船会社 三井物産  外国航路 の船員が 日本一多 い町でし た。	口之津税関のガラス 明治32年の当時の Y-ダガラス ガラス組 はまてゐる！  歴史の生き証人。
図表対応番号－1	図表対応番号－1
マルガリータ 村木 蔵作 司馬 彦太郎 執筆  はっぴい人は夏にきて、冬に帰る。ロミオと ジュリエット！！ 輸入品 生糸、絹織物 輸出品 銀が中心 石炭、銀、絹織物	日清戦争後第1号の永野萬蔵  カチヤにある MOUNT MANZO NAGANO
図表対応番号－1	図表対応番号－1
自転車 明治20年 鉄の車輪 英国製  日本に 2台 超え こんな所 を走って たのびよう か？	九年母 (くねぼ) 九年母 デコボコの初まり インドシ半島より 国産果樹研究所のナツ にあるよ 
図表対応番号－1	図表対応番号－1
コロン島の 深いつばき  明治32年 12月14日 石炭、絹織物 の輸出品	花の色は紫 色、小波、 海岸道路の 風景、形 上  6月に 咲き出す 紫色の花 「ジャカラータ」 口之津の 末綱さんが川添の草野隆一郎氏へ

図表対応番号－2	図表対応番号－2
	
図表対応番号－2	図表対応番号－3
	
図表対応番号－4	図表対応番号－5
	
図表対応番号－6	図表対応番号－7
	

図表対応番号－8 白浜海岸  雲仙に来ていた巡遊客もたくさん訪れた 白浜海岸。「キリタンぼて」や「馬原大堂」 の津波の被災者(漁夫)のお墓がある。	図表対応番号－9  瀬崎岬灯台 溜瀬さがまぐ 早崎瀬戸 ここで遭難船が多かった
図表対応番号－10  住民が守った 岩 住民にこの岩の説明 本は地域の宝である ある日、松はいいかきうい なした とり戻した!! 430万年前の海岸砂 早崎玄武岩 コレ	図表対応番号－11  アコウ群落 南島原市の市木 樹齢は、400年～500年? 大木は、防風林、やさい 〈50%、しめじの森〉 イサジツの仲間 おもての森で新築作 り。
図表対応番号－12 口え津果樹研究カク の果樹園  口え津果樹研究カク の果樹園 1000種類程の 果樹	図表対応番号－13 口え津町の糸巻末処理 施設 南蛮船の形をして 事務所
図表対応番号－14 口え津灯台  明治13年(1880)5月10日 初点灯!! 1,757円+当時の建設費 全国で43番目、九州で 5番目、長崎で3番目、 島原半島で1番!! 同じライトが資料館に 展示してある。	図表対応番号－15 のろし山 「太宰府まで」のろし 烽火  のろし山

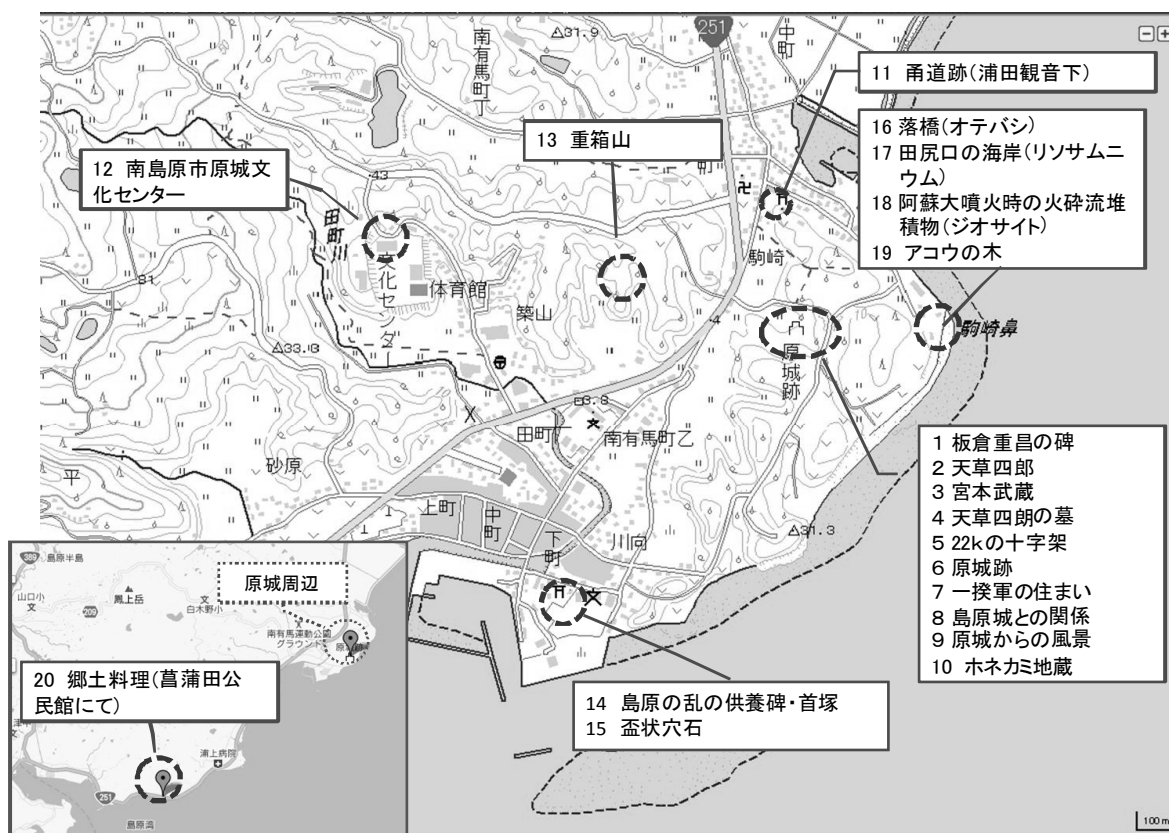
図表対応番号－16	図表対応番号－17
	
図表対応番号－	図表対応番号－
	

Ⅱ. 原城（跡周辺）コース

島原の乱終焉の地「原城跡」。立て籠もった一揆衆約3万7千人に対し、幕府側の討伐軍は12万人以上にもなり、陸と海から原城を包囲した。島原の乱に纏わる遺構を中心に原城跡周辺をさらくコース。

案内：内山哲利氏（原城跡観光ガイドの会代表）

図 「原城コース」踏査資源



■「原城コース」周辺資源一覧

資源分類									
自然資源					人文資源				
動植物	地形地質	景観	その他	歴史資源	施設	生活文化	人材	その他	
				●					1 板倉重昌の碑
				●					2 天草四郎
				●					3 宮本武蔵
				●					4 天草四郎の墓
				●					5 22Kの金の十字架
				●					6 原城跡
				●					7 一揆軍の住まい
				●					8 島原城との関係
		●							9 原城からの風景
				●					10 ホネカミ地蔵

資源詳細内容

島原の乱の征討使として着任。成果が上がらず、第2征討使、松平伊豆守が派遣されたのにあせり、寛永15年元月総攻撃を取行し戦死。この碑は、乱後43年目の1681年に重昌の孫である重通の依頼で建立計画され、碑文を彫り建立を申し出たが、許可されず放置されていた。その後1798年板倉八右衛門勝彪(島原松平氏主席家老)によって建てられた。(全国地域観光情報センターHPより)

江戸時代の初期キリシタンで島原の乱の指導者。説明に美少年、カリスマ性に溢れ、キリシタンの間で救世主と崇められた人物。海面を歩いたなどさまざまな奇跡を起こした伝説があるが、それはすべて自然の原理を利用するなどしたマジックではなかったかともいわれている。

島原の乱の際、原城攻陥に参加したが、反乱軍の百姓が投げた石が膝にあたり負傷し、仕事をしないで帰ったことが、五輪書に書かれている。

西有家の民家の石垣から見つかる。今は原城に移されている。

昭和26年に原城跡の畑で農作業をしていたおばあさんが発見。出土した金製の十字架は、現在大阪南蛮文化館に所蔵されている。

億単位の保険金がかかっている。

有明海に張り出した丘陵に、明応5年(1496年)日野江城の支城として有馬貴純によって築かれた城。元和の一國一城令で廃城となる。島原の乱の際、一揆軍3万7千人が籠城したこと全国の耳目を集める。

幕府軍との激しい攻防の末、陥落した原城では、女性や子どもまでもが皆殺しになるという惨状であった。

火事にならないように、食事は作らずに給食センターのような所から配給されていた。

島原城の石垣などに使われた石は原城を含むいくつかの支城からとってきたものといわれているが、最近の調査で使われていなかったのではないかとの説も浮上している。

海に面した城、原城は遠く天草を見渡せる。

ホネカミ地蔵は「島原の乱」後の明和3年(1766年)、この戦乱でたおれた人々の骨を敵・味方の区別なく拾い、霊を慰めた地蔵尊塔。

「ホネカミ」とは「骨をかみしめる」の意味で、そのことから「自分自身のものにする」「人々を済度する(助ける・救う)」と理解すべきだと言われている。

資源分類									
自然資源			人文資源				資源詳細内容		
動植物	地形地質	景観	その他	歴史資源	施設	生活文化	人材	その他	
				●					11
					●				12
		●		●					13
				●					14
				●					15
		●		●					16
●		●				●	●		17
									18
●									19
						●			20

■「原城コース」資源カード

図表対応番号－1	図表対応番号－2  天草回郎はマジシャン!? ♡♡ 肥前がりのあつた 回郎は美男に なつた
図表対応番号－3  官本武蔵が来た!! みづは石のあたり は事出来ず帰る 写真ない	図表対応番号－4  天草回郎のお墓. 山崎の墓 石の 墓の 今原城に移してある
図表対応番号－5  22k金の十字架 原城、宝物だ! 里帰りも望んでいる。 宝物は大阪の 南宮文化館に ある。	図表対応番号－6
図表対応番号－7  一揆軍の住まい!! 火事にならなよう 食事は作作す 給食センターの ようにならなよう 面と給食センター	図表対応番号－8  原城の石は島原城には 使われていた!!

図表対応番号－9 ～<u>原城</u>からの風景～ 海に面した城、原城 遠く天草も見渡せよう。 	図表対応番号－10 ホネカミエぞう  「島原の乱」後、この戦乱で倒れた人々の骨を敵・味方の区別なく拾い、雲を慰めた地藏尊塔。「ホネカミ」とは「骨をかみしめる」の意味。そのことから「自分自身のものにする」「人々を濟度する（助ける・救う）」と理解すべきだと言われている。
図表対応番号－11 ヒミツの攻撃!! (甬道跡) 長さは50m! 幕府軍が原城まで 攻撃の準備穴を ほし 一揆軍に 気付かれ 失敗。 浦田親吉の下 あしき。 	図表対応番号－12 まずは 島原の乱のお勉強。(文化センター) 原城発掘 しつりか あります。 頭のない 人骨が 重なり合っ 
図表対応番号－13 重箱山から原城を望む... オレンジ砲台 跡 ここから原城が 700m! 打ち込んだ王は 天草四郎の 袖口を 解めいとか... 	図表対応番号－14 首塚 (3,333の首) フリシンは 鬼里支丹  
図表対応番号－15 臼形穴石 	図表対応番号－16 落橋 (オデバシ) 2kmの木橋 原城大那門から 日野江城まで 2kmの木橋が あった。 オデバシ 今の落橋地区に 橋桁らしきものか ある。 

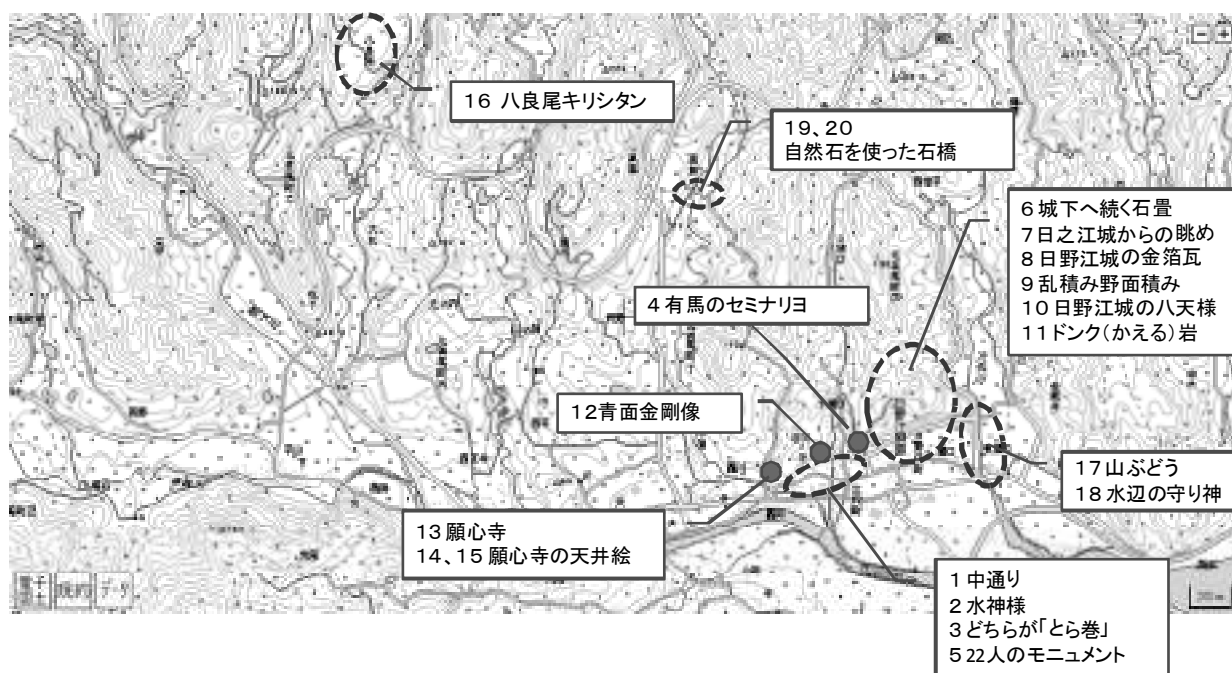
図表対応番号－17 田尻口の海岸（ササニウム）  真砂橋 湯タコおじさん 世界で3ヶ所しかない リンサニウムの生息地 （3月～6月の大潮の時に マサゴが現れる。） 	図表対応番号－18 阿蘇の大噴火の端っ!! (ツオサイト)  火砕流 海を渡る!! 真砂の表に おりま たい積した 火山灰で 釜鍋を洗っていた。 (火砕流3後の経験だった) 
図表対応番号－19 南島原市の木「あこう」  実は食べうまう。 いちぢくの葉を 小さいかんい。 海岸沿いに あいら。 #写真は真砂の橋 地元民の散歩コース です。	図表対応番号－20 郷土料理 !!  
図表対応番号－20 地元の食材がたくさん。  南瓜も玉ねぎ オクラも お米も 豆菜も…… 恋する マロニ (maron) *しーせん* まめ茶(玉ねぎの皮入り) です。	

Ⅲ. 北有馬（日野江城下町）コース

日本を代表する文学者である遠藤周作が残した、セミナリヨや日野江城に関する作品を、実際に著者が巡った古道を辿りながら回想するとともに、北有馬町内のキリシタン史跡をさらにコース。

案内：佐藤光典氏（有馬つんなも会 会長）

図 「北有馬コース」踏査資源



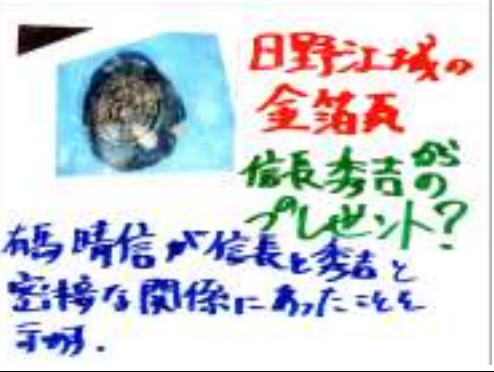
■「北有馬コース」周辺資源一覧

資源分類										資源詳細内容	
自然資源					人文資源						
動植物	地形地質	景観	その他	歴史資源	公園利用施設	生活文化	人材	その他	地点		
				●					1	中通り 細く長く美しい通り	キーワード・キャッチフレーズ
						●			2	水神様 更地に残る井戸跡	
						●			3	どちらが「とら巻」 南蛮貿易の産物としてモスアイツ	
				●					4	有馬のセミナーヨ 教育機関	
			●						5	22人のモニュメント	北有馬のセミナーヨ
				●					6	城下へ続く石畳	遠藤周作お気に入りの古道
		●		●					7	日之江城からの眺め 原城跡のヤシの木2本	祭)を城下を往來しました。 日之江城跡からは有馬町を一望でき、原城跡の目印、ヤシの木が良く見えます。
				●					8	日野江城の金箔瓦 信長秀吉からのブレゼント?	有馬晴信が信長と秀吉と密接な関係にあった事を示す。
				●					9	乱積み野面積み 日野江城、二の丸に残る石垣	この下に100mの階段遺構がある(安土城の遺構と同じ)
				●					10	日野江城の八天様 かくれキリシタンの遺物?	地元では八天様と。役小角、祠(ほこら)は1667年の建立とも。 研究者の間では、隠れキリシタンの遺物ではないかとも。今後の解明に期待を込めて..
						●			11	ドンク(カエル)岩	普賢岳・雲仙・日野江・原城を結ぶ方向石。道祖神か?
				●					12	青面金剛像	地域の人は庚申様と呼ぶ。切支丹研究家の中では聖母マリア像をかたどった隠れキリシタン碑ではないかと。 1770年(明治7)の建立。

資源分類									
自然資源				人文資源					
動物	地形 地質	景観	その他	歴史 資源	公園 利用 施設	生活 文化	人材	その他	
				●					13
				●		●			14
				●		●			15
				●					16
●			●			●			17
				●		●			18
		●		●		●			19
		●		●		●			20

資源詳細内容	キーワード・ キャッチフレーズ	資源名称	地点
元々、台雲寺で島原の乱の後、願心寺が建立された。	有馬氏歴代の菩薩寺の跡地に願心寺が建立	願心寺	13
明治30年の火災後に建てられた本堂の天井には、267枚の天井絵が！ 地元の絵師2人が有馬の風土を表す絵や干支などを書く。 そうめんを食べるサルも！？	有馬の花鳥風月	願心寺の天井 絵	14
大発見！！数多くの天井の絵の中から、なんとそうめんを食べているさるの絵が。それにしても長〜いそうめん・・。	そうめんを食べる おさるさん	願心寺の天井 絵	15
全国に250の内、島原半島には130もある！？ 圧倒的な多さ、農家の踏み台から一部を見事発見！救出！	農家からみつけた 山	八良尾キリシタ ン墓碑	16
国産ぶどうのルーツか？有馬晴信が切腹前に山梨へ幽閉されたときにこのぶどうを持って行った・・・かもよ。 大日如来・恵比寿様・水の神様(神話の神?)が一体となった神様。大日如来の背にさす後光がキリストの背にさす後光のよう・・。	甘くてすっぱい山 ぶどう 三位一体神	山ぶどう 水辺の守り神	17 18
自然石をアーチ式に使った石橋は、日本国内ではただ一つしか残されていません。	たたかなくても渡 れます！ 坂下川にかかる元 平橋	自然石を使った 石橋	19
橋かけかえ時に住民の保存の意が強く、今も元気！		自然石を使った 石橋	20

■「北有馬コース」資源カード

図表対応番号－1  日野江城下(400年前)のメインストリート。 有馬セナリヨが置かれた当時は、復讐争い 最中。大行列が通った。バレットが、行かずに 宝殿跡ルイス・フロイスの通りを「細く長く美しい通り」と ローマに報告している。	図表対応番号－2  500年前の「細く長く美しい通り」に面した 空地も…更地の点々…。それでも人々は、寺戸 神は…水に感謝して…今も水神様を している。
図表対応番号－3  とら巻「とら巻」 南有馬の寺戸 とら巻 とら巻 とら巻	図表対応番号－4  「有馬セナリヨ」 キリシタンの中等教育機関 22人の生徒からスタート！ 33年も続いた、日本初!! 西洋文化の学び舎!!!
図表対応番号－5  「22人の モニュメント」 北有馬のセナリヨへ 北有馬町内のあちこちに設置され た「セナリヨ」の生徒22人を表す 首には南蛮工、脚には馬蹄形の あちこちモニュメント！	図表対応番号－6  城下へ続く 石畳 遠藤周作の 城下 fenceの音と馬蹄形の 有馬暗住、貴人、motel と城下へ続く石畳。
図表対応番号－7  「日え江城からの 眺め」 原城跡のヤシの木2本 日え江城跡からの眺めは 有馬町を一望でせ、 原城跡・日印・ヤシの木が みえます！	図表対応番号－8  日野江城の 金箔瓦 信長秀吉の プレゼント？ 有馬晴信が信長と秀吉と 密接な関係にあたり 証明。

図表対応番号－9  乱獲み 野面積み 日野江城・二の丸 にのち城る垣。 この下に100メートルの 階段遺構あり (宮之城の遺構と同じ)	図表対応番号－10  日野江城の 八天様 かくれキリシタンの 遺物？ 地名は八天様... 從小島 お島... 村は 1677 年の建立とも 研究者の間では かくれキリシタンの遺物では ないとも... 今後の発掘に期待をこめて...
図表対応番号－11  「ドンク岩」 (カマド) 善哉善哉 日野江・厚城 を結ぶ方向に	図表対応番号－12  青面金剛像 もくして 隠れキリシタノ墓碑 地域の人は庚申奉忌による... 切支丹研究家 の中には 埋蔵マリア像をみたのは 隠れキリシタ ン碑ではな... とも... 1770 年（明和 7）の建立。
図表対応番号－13  願心寺 有馬氏歴代の菩薩堂寺。 跡地に、願心寺が建立 天竺、白雲寺で 寛永の乱の後 願心寺が建立された。	図表対応番号－14 願心寺の天井絵 有馬の花鳥風月  明治30年火災後の建て直 し本堂の天井には 267 枚の 天井絵が!! 地元の絵師が 有馬の屋敷を表現した 千夜千日にも書く、 有馬を食ひつるウサギ!
図表対応番号－15  願心寺の 天井絵 そうめんを食べ るお母さん 大館地区 敷島の天井 絵の中にも、267 枚の絵が 描かれていて、その中に お母さんが、お母さん、 お母さん...	図表対応番号－16 「八良尾キリシタン 墓碑」  農家から見つけられた。 全国に 250 の内、島原 半島には 130 もある!? (8-10) 歴史的な場所、農家の跡が 台から見事発見! 救出!

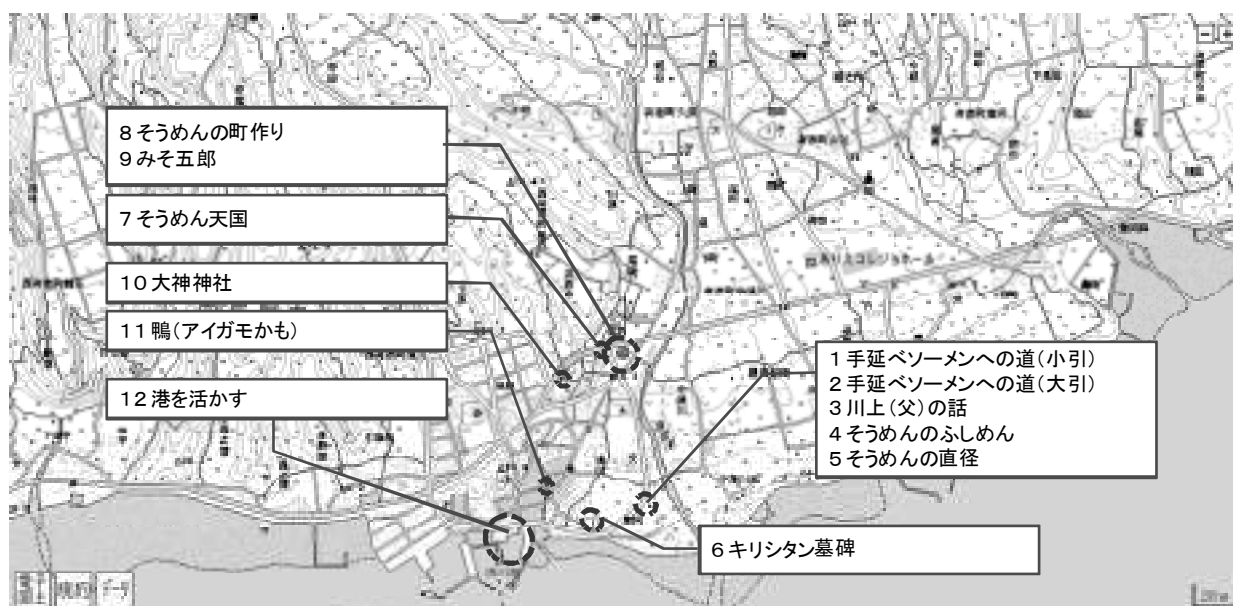
図表対応番号－17	図表対応番号－18
 山ぶどう 甘くておいしい 山ぶどう 国産ぶどうのルーツか？ 有馬晴信が龜切藩前に山梨へ山開きをした ときにこのぶどうも持って行った…がさよ	 「水辺の守り神」 三位一体神 大日如命・恵比寿様 ・木の神様(杵杵神?)が 一体となす神である大日如命の背に てす磐石がキリストの背に てす磐石のよう…
図表対応番号－19	図表対応番号－20
 自然石を使った 石橋 たまたまでも 渡れます！  自然石とアーチを使った 石橋は 日本国内でも たまたま残されて います	 自然石を使った 石橋 坂下川にのみ 元平橋  橋のつくり方に 伝統の保存の意 強く…今も元気

Ⅳ. 西有家コース

島原手延そうめんとみそ五郎の里、西有家町。古くから良質の小麦がとれ、雲仙の豊かな湧水と、温暖で乾燥した気候に恵まれた地域であり、300 有余年の歴史を持つそうめんは全国第2位の生産量を誇る。島原そうめんの町、西有家須川周辺をさらくコース。

案内：高橋泰介氏

図 「西有家コース」踏査資源



■「西有家コース」周辺資源一覧

資源分類										資源詳細内容		
自然資源					人文資源							
動植物	地形地質	景観	その他	歴史資源	公園利用施設	生活文化	人材	その他				
						●			1	手延べソーメンへの道(小引)	手延べソーメンへの第一歩	キーンワード・キャッチフレーズ
						●			2	手延べソーメンへの道(大引)	本格的に延ばしていきます。	資源詳細内容
							●		3	川上(父)のお話	手延べそうめんの話であればドンとこい!!!	一気に引かずにググググッと。
						●			4	そうめんのふしめん	そうめん作りに捨てる物はない。	小引の次のステップです。小引で延ばした長さから3倍の長さに伸ばしていきます。
						●			5		そうめんの直径	とても上手な説明。かなりの資源だと思えます。
				●					6	クリンタン墓碑		生産の過程で残った「ふしめん」はそのまま油でいためるとおつまみになります。
									7	そうめん天国	面食いで昼食	手延べそうめんは上と真ん中と下で直径がちがう。みんなで切り口をのぞきこんで違いを確認。
							●		8			「吉利支丹墓碑」は「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」として世界遺産国内候補「暫定リスト」に推薦されました。
									9			リーズナブルでおいしいそうめんを多種取り揃えています。元々商工会長の松本さんが創めた。南島原多産のそうめんをたべられるお店。地元の人ばそうめん屋さんが親戚だったり友人だったりするから来ない。市外から多くのお客さん。
		●							10	そうめんの町作		気が付いた？そうめんの形になっているよ。一緒にそうめんの町を作りましょうか。
						●			11	みそ五郎	伝説の英雄	嵐の海に流された船を何隻も陸に引き揚げ、漁師を助けました。
				●					12	大神神社	通称「そうめん神社」	
●						●				鴨(アイガモかも……)	須川川に鴨誰かが飼っているらしい	昔は列を作って町を歩いたのを見ていたとか。卵を捜してとったりしたそうです。(高橋さん談)
					●						港を活かす	海路を活用して、雲仙など隣接の観光地とつなげる。船で遊びながら昔のにぎやかさを取り戻す。

■「西有家コース」資源カード

図表対応番号－１ 手延べソーメン への道（小引） 手延べソーメンへの 第一歩 一畝に引れず！ グッ、グッ、グッ！！	図表対応番号－２ 手延べソーメンへの道 （大引） 本格的に延ばして いきます。 小引の沢・スラップ で済。小引で延ばした後は もう一度水をかけ延ばして いきます。
図表対応番号－３ 川上(父)のお話 手のべそうめんの 話であれば ドンとこい。 とても上手な説明。 貴重な資源だとも思います。	図表対応番号－４ 生糸の過程で残った 「おしめん」は元のまま 油でいためると おつまみにぴったり。 そうめん作りは 煮る物は古い。 しょうめんの おしめん
図表対応番号－５ そうめんの直径 手のべそうめん、 上と真中と下で 直径がちがう。 みんなで、かりろものをきいて ちがいを確認	図表対応番号－６ 吉利王行書碑は、長崎の吉原町 にある天ト新開通とある寺の境内 内に設置された石碑で、明治維新 しました。 石碑建立経緯 キリシタン 墓所
図表対応番号－７ そうめん王国 面食いで昼食 リーズナブルで おいしい。そうめんを 手軽に楽しんでいます。 元々、高工食品長の松本さんが「おいしくて、南島原、 気持よく食べたい」という思いから、地元の人には「そうめん屋」として 親しまれており、今では多くの人が来店しています。南島原の新しい名産品として	図表対応番号－８ そばの文化の中心地、そうめん王国 になってます★一緒にそうめん の歴史を作ります。 そうめんの 町作り

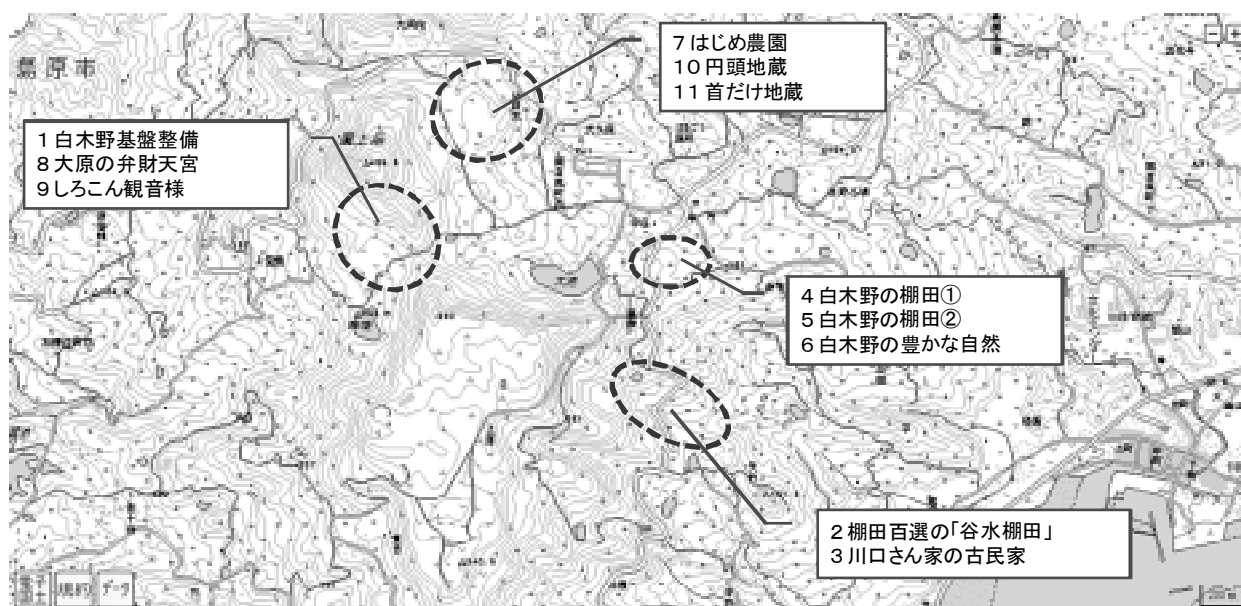
図表対応番号－9 	図表対応番号－10 
図表対応番号－11 	図表対応番号－12 

V. 白木野コース

南有馬町北西部に位置する白木野地区。棚田百選の「谷水棚田」を有する農業が盛んな地域であり、平和祈念像を作成した北村西望翁の出身地でもある。自然豊かな集落、そこに働く人々とその暮らしを訪ねてさらにコース。

案内：馬場武氏（南有馬棚田保存会会長）

図 「白木野コース」踏査資源



■「白木野コース」周辺資源一覧

資源分類										資源詳細内容
自然資源					人文資源					
動物	植物	地形地質	景観	その他	歴史資源	公園利用施設	生活文化	人材	その他	
●			●				●		1	白木野基盤整備 地点
									2	白木野の里 白木野 キーワード・キャッチフレーズ ほたるの里 白木野 風がみえる棚田
			●				●	●	3	川口さん家の古民家 (谷水棚田) 資源名称 白木野の棚田 100%こだわりのジュース ひっそりとした佇まいが印象的 安産祈願の観音様 しろこん観音様
●				●					4	白木野の棚田 ① 生きもの調査
●									5	白木野の棚田 ② カエルがいっぱい
●									6	白木野の豊かな自然 生き物がいっぱい
							●		7	はじめ農園 100%こだわりのジュース ひっそりとした佇まいが印象的
					●		●		8	大原の井財天宮 安産祈願の観音様
					●		●		9	しろこん観音様
									10	円頭地藏 オメガ型円頭地藏
					●				11	昭和40年代ころの洗濯場 首だけ地藏

■「白木野コース」資源カード

図表対応番号－1 	図表対応番号－2 
図表対応番号－3 	図表対応番号－4 
図表対応番号－5 	図表対応番号－6 
図表対応番号－7 	図表対応番号－8 

図表対応番号－9  安産祈願の 観音様 よく叶うと評判!! 地元の人はよく お参り します。 今日は みんなの手を合わせました!	図表対応番号－9  ↑ お父さん?! ↓ お母さん?! そりゃマリア様 では?? 2体の観音様が。
図表対応番号－10  オメガ型 円鏡地蔵 あめさ 坊目本集落の 入口に ありました。 地蔵様 石祠	図表対応番号－11  首だけ地蔵 昭和40年代ごろの 洗たく場 …に、ナゼか 首だけのお地蔵さん が かくれていました!

南島原の魅力 掘り起こせ

地域再生へフィールドワーク

谷水棚田近くの農家で牛のくらしを見入る参加者

〓南島原市南有馬町



自然や歴史再発見

谷水棚田、しろこん観音、牛の「くら」…

南島原市の持つ魅力を掘り起こすイベント「南島原あるもの探し」が7月31日にあり、市内外の人たちが一緒に五つの地域を巡って自然や歴史などを見詰め直した。

1934年に日本初の国立公園に指定された雲仙の100周年に向け、島原半島の地域再生を目指す「雲仙プラン100プロジェクト」の島原半島ワイキンググループなどが主催。市内や島原、佐世保両市から約50人が参加した。

参加者は5班に分かれ、口之津、原城、北有馬、西有家、白木野の5コースでフィールドワーク。地元ガイドらの案内で史跡などを見て回り、昼食はそれぞれの地域の特産品を使った郷土料理を堪能した。

白木野コースでは、幼児を抱いた石像「しろこん観音」や日本の棚田百選の「谷水棚田」などを探索。米の運搬などに使用していた牛の背中に乗せる「くら」などを農家で見て、昔の文化にも触れた。

終了後、各班は撮影した写真や感想などをまとめた「地域資源カード」を作成し、発表した。3人の娘と白木野コースに参加した島原市の松田芳充さん(45)は「町のはずれにあるお地蔵さんそれぞれにいわれがあり、当時の歴史が思い起こされた。面白かった」と話した。

(副島宏城)

長崎新聞 2011/8/3

⑤ 考察

南島原市には、様々な魅力的な資源があり、それを解説する組織や人、技量も充実しており、受入体制が整っていることがわかった。

しかし現状では、活躍の場がほとんど無く（年に数回程度しか無いとのこと）、これは、利用者との接点や、両者をつなぐ役割が不足していることが原因と考えられた。

一方雲仙は、観光客のニーズ等を受け、島原半島を広く紹介したいと感じている。しかし、その体制が整っておらず、半島の魅力を十分に伝えられていないのが現状。

この両者が手を組み、プランやツアープログラムとして、組み立てていければ、南島原の人達の活躍の場や魅力を伝える場が増え、訪れた利用者にも喜んでいただけ、結果として、各地域や各産業が元気になれる可能性が大いにあることが分かった。